

能代市教育委員会 事務点検・評価報告書

(令和3年度対象)

令和4年8月

能代市教育委員会

目 次

I 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
1 趣旨	
2 事務点検・評価の実施	
3 事務点検・評価の方法	
4 事務点検・評価の流れ	

II 事務点検・評価の結果	3
1 学識経験者の総合的意見	
2 施策体系と評価一覧	

基本目標 1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進

① 学校・家庭・地域の連携協力の推進	6
② 保護者への学習機会の提供等による家庭教育の支援	16
③ 地域活動に必要な学習機会の提供	18
④ 読書活動の推進	20
⑤ 食育の推進	22

基本目標 2 豊かな人間性を育む学校教育の推進

① 主体的で創意ある教育活動の推進	25
② 心豊かでたくましい子どもを育てる指導	27
③ 基礎学力の向上を図る学習指導	31
④ 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修	34
⑤ 安全・安心な学校教育環境の整備	37

基本目標 3 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進

① 学習の成果を地域に生かす取り組みの推進	42
② 市民ニーズや地域課題に対応した多様な学習機会の提供と充実	44
③ 学習を通した生きがいづくり、仲間づくりの支援	46
④ 社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実	48

基本目標 4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興

① 伝統芸能の継承	52
② 文化財保護事業の推進	54
③ 文化芸術の振興	59

基本目標 5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進

① 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実	63
② ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	65
③ スポーツを活用した地域の活性化	67
④ 市民が主体的に参画できるスポーツ環境の整備	69

III 教育委員会の運営状況	71
1 教育委員会の開催状況	
2 教育委員の活動状況	

I 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすため、教育委員会自らが、教育行政事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「事務点検・評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を議会へ提出し公表します。

2 事務点検・評価の実施

能代市では、「学び合う 感謝と思いやりにあふれる“わ”のまち能代」を基本理念に、最優先すべき目標を「学校・家庭・地域・行政が一体となって子どもたちを育むまちづくりの推進」と定め、平成30年度から5年間を計画期間とした「能代市教育等の振興に関する施策の大綱」（以下「大綱」という。）を平成30年3月に策定しました。

事務点検・評価の実施にあたっては、この大綱を踏まえ、次により行います。

（1）事務点検・評価の位置づけ

事務点検・評価は、大綱の進行管理として実施し、第2次能代市総合計画の進行管理と併せてPDCAサイクルを確立し、より効率的な事業進捗を図るとともに、効果的な教育行政を推進します。

（2）事務点検・評価の対象

事務点検・評価の対象は、大綱の基本目標及び施策の方向性に沿った主な事業や取組とし、その実績や成果を自己点検、自己評価したうえで、課題と今後の方向性を整理し、次年度の目標を明らかにします。

3 事務点検・評価の方法

事務点検・評価は、目標に対する達成状況や成果等を基準に自己評価を行い、「目標を上回る」、「ほぼ目標どおり」、「目標をやや下回る」、「目標を大幅に下回る」の4区分とし、今後の取組の方向性は、「拡充」、「継続」、「廃止検討」、「その他」の4区分とします。

また、事務点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する次の2名の方から外部評価をしていただきます。

秋田大学教育文化学部長	上 田 晴 彦 氏
元能代第二中学校校長	野 村 重 公 氏

4 事務点検・評価の流れ

（1）所管課による事務点検・評価

教育部各課及び施設等は、所管の対象事務について、事務点検・評価案（事務点検・評価シート）を取りまとめます。

（2）内部評価

所管課がまとめた事務点検・評価案を部内検討し、次年度に向けた課題や今後の取

組の方向性を定めます。

(3) 学識経験者による外部評価

事務点検・評価案に関して学識経験者の外部評価を経て、事務点検・評価報告書（以下「報告書」という。）を作成します。

(4) 教育委員会の議決

報告書を教育委員会に諮り議決をします。

(5) 議会への提出及び公表

報告書を議会へ提出し、ホームページ等で市民に公表します。

(6) 報告書の活用

能代市総合計画の第3期実施計画の策定や翌年度予算編成において、事務点検・評価を踏まえた的確な対応に努めます。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 事務点検・評価の結果

1 学識経験者の総合的意見

上田 晴彦 氏

令和3年度もコロナ禍という大変困難な状況下での取り組みとなりましたが、5つの基本目標に沿って、かなりの成果を上げられたとしてよいと思います。特にA（目標を上回る）評価が31項目中9項目ある一方で、C（やや下回る）は1項目のみであったことから、関係者の皆様は一定程度的手ごたえを感じながら事業に取り組まれたのではないかと推察しています。

評価がAとされているものについては、全くその通りだと思いますし、それに付け加えて言及する必要もないと思います。評価がB（ほぼ目標通り）としたものの中では、「放課後子ども教室推進事業」、「基礎学力の向上を図る学習指導」、「民俗芸能振興事業」などが目につきました。これらは非常に重要な取り組みとされますので、来年度も精力的に取り組まれ、大きな成果を上げて頂くことを期待しております。

近年の教育を取り巻く状況は大きく変化しており、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた事業展開・取り組みが求められると考えています。今後の取り組みにおいては、以下の2つの観点から、さらなる努力を積み重ねて頂きたいと思っております。

第1には、少子高齢化が進み、地域が活力を失いつつある状況下において、学校が地域活性化の拠点となる必要があるということです。町内会などの伝統的なつながりが弱まりつつあるので、地域と学校が連携して取り組む事業を今以上に活性化することが、求められているといえると思います。

第2には、コロナ禍で急速に整備が進んだ1人1台の学習用端末、および高速ネットワーク環境をどのように活用するかということです。GIGAスクール構想はハードウェアに相当するものですので、実際の授業で活用するには、デジタル教科書や学習用アプリなどのソフトウェア、そして何よりも指導体制が揃っていなければなりません。そのためには教職員の資質能力の向上が必要不可欠となります。

以上、色々申し上げましたが、変化の激しい現代社会に対応する、新たな視点での教育施策を実施されることを期待しております。

野村 重公 氏

はじめに、令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底したことにより、施策体系31項目すべてを評価できたことは大きな成果といえます。今後もコロナ対策に苦勞すると考えられますが、対応策を講じて事業の推進に努めていくことが大切です。令和3年度の事業を振り返ってみると、令和2年度は事業評価Aが7項目でしたが、令和3年度は事業評価Aが9項目と、昨年度と比べて目標を上回る評価を多く得ることができました。これは、適切な計画に基づいた実践力ととらえることができます。

次に、今年度の事業の成果についてです。

第1に、主体的で創意ある教育活動の推進があげられます。ふるさとキャリア教育の趣旨を生か

した教育活動を各校で展開し、ふるさとのよさを理解してふるさとを愛する心を高めることができました。コミュニティ・スクール制度を構築し、令和3年度から全校実施された「地域学校協働活動」と連携を図りながら児童生徒を育てる環境づくりに努めたことが、ふるさとキャリア教育の推進につながったととらえます。

第2に、児童生徒の高い学力が維持されていることです。ねらいに応じた研修会を適切に設定して教員の資質向上に努めたことが、教員の授業力向上につながりました。特に、ICT教育は、教育委員会の指導のもと、推進校の実践を踏まえて各校が研究を進めたことが、ICTを活用した授業の構築につながりました。また、「主体的・対話的で深い学び」の授業が充実しており、児童生徒の思考力・判断力・表現力を高める結果となっています。

次に、今後の課題についてです。

第1に、今後、児童生徒の高い学力を維持するためにも若手教員の授業力向上は必須条件です。教育委員会が若手教員の資質を高めるための研修会を工夫し、各小・中学校が連携を深めて相互の授業力向上を目指した研修を進めるなど、早急な対応が必要となります。

第2に、これまで教育委員会が第一の目標として掲げていた、「安全・安心な学校づくり」に努めていくことが大切です。各校が危機管理に努め、校内の児童生徒事故を減らすことが来年度の目標となります。また、関係機関との連携を図り、通学路の安全を確保することが教育委員会の役割となります。

終わりに、今後、各目標においてあげられた成果と課題をしっかりと分析し、それに基づいた新しい目標を設定して、「学びあう 感謝と思いやりにあふれる“わ”のまち能代」の基本理念の実現に向けて、職員が一丸となって努力してほしいと願っています。

2 施策体系と評価一覧

基本目標		
施策の方向性		3年度事業評価
1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進		
①学校・家庭・地域の連携協力の推進（のしろDEマナブ事業）		A 目標を上回る
① ” （放課後子ども教室推進事業）		B ほぼ目標どおり
① ” （青少年健全育成事業）		B ほぼ目標どおり
① ” （子ども館活動事業）		A 目標を上回る
②保護者への学習機会の提供等による家庭教育の支援		B ほぼ目標どおり
③地域活動に必要な学習機会の提供		B ほぼ目標どおり
④読書活動の推進		B ほぼ目標どおり
⑤食育の推進		B ほぼ目標どおり
2 豊かな人間性を育む学校教育の推進		
①主体的で創意ある教育活動の推進		A 目標を上回る
②心豊でたくましい子どもを育てる指導（自己実現を支える生徒指導）		B ほぼ目標どおり
② ” （健やかな心と体の育成）		B ほぼ目標どおり
③基礎学力の向上を図る学習指導		B ほぼ目標どおり
④幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修		A 目標を上回る
⑤安全・安心な学校教育環境の整備（学校安全の推進）		C 目標をやや下回る
⑤ ” （就学援助、奨学金貸付事業等の周知徹底と利用促進）		B ほぼ目標どおり
⑤ ” （学校施設の老朽化対策等の推進等）		A 目標を上回る
3 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進		
①学習の成果を地域に生かす取り組みの推進		B ほぼ目標どおり
②市民ニーズや地域課題に対応した多様な学習機会の提供と充実		A 目標を上回る
③学習を通じた生きがいがづくり、仲間づくりの支援		B ほぼ目標どおり
④社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実（公民館管理運営事業等）		B ほぼ目標どおり
④ ” （図書館管理運営事業）		A 目標を上回る
4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興		
①伝統芸能の継承		B ほぼ目標どおり
②文化財保護事業の推進（文化財保護事業）		B ほぼ目標どおり
② ” （檜山安東氏城館跡保存管理事業）		B ほぼ目標どおり
② ” （埋蔵文化財調査事業）		B ほぼ目標どおり
③文化芸術の振興（市民文化振興事業）		A 目標を上回る
③ ” （文化会館主催事業）		A 目標を上回る
5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進		
①学校と地域における子どものスポーツ機会の充実		B ほぼ目標どおり
②ライフステージに応じたスポーツ活動の推進		B ほぼ目標どおり
③スポーツを活用した地域の活性化		B ほぼ目標どおり
④市民が主体的に参画できるスポーツ環境の整備		B ほぼ目標どおり

評価内訳	
A 目標を上回る	9
B ほぼ目標どおり	21
C やや下回る	1
D 大幅に下回る	0
計	31

■評価項目中、ほぼ目標どおり以上 30/31 (96.8%)

事務点検・評価シート

【 生涯学習・スポーツ振興課 】

基 本 目 標	1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進		
施 策 項 目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進		
方 針 ・ 目 標	自分が住む地域への理解を深め、「ふるさと能代」に愛着をもった子どもたちを育成するため、能代の地域全体を学びの場とした体験活動を中心に事業を推進します。		
事業・取組名	のしろDEマナブウ事業		
目 標 値	マナブウ講座の参加人数で、過去3年間の平均値との比較で平均値以上を目指します。		
事 務 事 業 の 実 績	(1) マナブウ講座の実施回数及び参加人数 65 講座 601 人参加 <u>過去3年平均値 562 人</u> (R2: 45 講座 581 人、R1: 51 講座 664 人、H30: 61 講座 442 人) (2) マナブウ・イベントの実施 ・ミニマナブウ市 (※新型コロナの影響により中止) ・マナブウ市 (※新型コロナの影響により中止) (3) マナブウ・カードの配布 434 枚配布 (R2: 332 枚) ※マナブウ講座を受講した際に配付。児童からデザインを募集し、カードを作成。新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」という。)の影響により、大人数が集うマナブウ・イベントが中止されたが、マナブウ講座の参加人数が増加したため、カードの配布数も増加した。		
点 検 ・ 評 価	評価	A	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] マナブウ講座とは、能代の自然や特色を活かし、子ども達が楽しんで体験しふるさとを学ぶ講座。(例: 米代川のカヌー体験、小友沼の野鳥観察、天神工房での木工体験、檜山探訪、ペットボトルロケットづくりなど) ① マナブウ講座の参加人数 601 人 (過去3年間の平均値 562 人) 1 回あたりの参加人数を制限するなど、新型コロナ感染拡大防止対策を行いながら講座を実施したことが、講座数や参加人数の増加につながった。地域資源を活用した米代川での「親子でカヌーに挑戦!」では、カヌーのほか川に棲む生物を調べるなど、例年好評を得ている。 ② 地域への理解を深めるため、「のしろの宝をさがしに行こう!」を開催。地域のガイドの説明により、七座山について学んだ。		
課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 () [具体的な課題及び取組] ① ニーズに応じた事業展開 アンケート結果に基づき、子ども達がやってみたい体験活動を各講座へ取り入れるなど、学校と日程調整を図りながら、より多くの子どもが参加できるような事業を推進する。 ② 事業内容の検討 放課後子ども教室(週末体験活動)と連携し、豊かな自然、歴史文化等の地域資源を生かした講座など、子ども達が楽しく遊びながら地域を学び、自ら興味を持って取り組める内容を検討する。		

学 識 経 験 者 の 意 見	○コロナ禍にもかかわらずマナブゥ講座の参加者数を増加させていることは、注目に値すると思います。今後も積極的に活動を続け、能代の子どもたちの貴重な体験活動の場を提供することに、力を注いでください。 □昨年度より、講座の実施回数、参加人数が増加していることは、事業実績として高い評価といえます。今後も、児童生徒のニーズに応じた事業を展開してください。 □小・中学校のふるさと教育を進めるためにも、マナブゥ講座で能代のよさを知る学習は非常に有効であると考えます。マナブゥ講座の豊かな体験活動を通して学んだことを、各学校のふるさと学習に生かされることを期待しています。
----------------------------	---

基 本 目 標	1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進						
施 策 項 目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進						
方 針 ・ 目 標	学校・家庭・地域・行政等が協働で、体験活動や見守りなど、子どもを育てる環境づくりに取り組みます。						
事業・取組名	放課後子ども教室推進事業						
目 標 値	放課後子ども教室推進事業の一日当たりの参加者数で、前年度と同等を目指します。						
事 務 事 業 の 実 績	1 参加者数等の推移 (人)						
		令和 3 年度			令和 2 年度		
		学校数	日数	参加者数	学校数	日数	参加者数
	平日図書室等開放	7	1,369	21,151	7	1,321	20,960
	土曜日体育館開放	3	65	1,080	3	81	1,251
	夏休みプール開放	6	70	5,601	6	76	5,695
	週末体験活動	7	33	500	7	32	394
	総合プラン	4	18	261	4	20	242
	合 計		1,555	28,593		1,530	28,542
	一日当たりの参加者数	18.4			18.7		
	2 週末体験活動の主な活動実績						
	・白神ねぎ収穫体験（淳城西小）・パステル和みアート（淳城南小）						
	・早朝の野鳥観察（第四小） ・カヌー体験（第五小）						
	・旧金勇見学（向能代小） ・缶もちづくり（浅内小）						
	・クリスマスケーキと松ぼっくりピエロ（二ツ井小）						
実施回数 5回（6校）、3回（1校）							
3 放課後子ども総合プランに基づく取組							
・向能代小 百人一首教室（5回、延べ69人うち児童クラブ41人）							
・第五小 おもしろ遊び教室（5回、延べ99人うち児童クラブ71人）							
・浅内小 ハンドメイド教室（5回、60人うち児童クラブ18人）							
・二ツ井小 音楽&ハンドメイド教室（3回、延べ33人うち児童クラブ6人）							
※新型コロナのため音楽教室は中止した。							
4 地域学校協働活動（R3～全校実施）							
地域、保護者、団体等の参画により、地域全体で子どもの学びや成長を支える協働活動を推進する。							
・地域学校協働活動推進員（全小・中学校各1名）							
小学校7校＋中学校6校 推進員13名（地域の方）							
・活動内容							
学習支援（授業支援、校外活動、職場体験、入試面接練習ほか）							
安全確保（下校指導、学区内パトロールなど）							
地域連携（花壇整備、挨拶運動、クリーンアップなど）							
学校祭等の支援（外部指導者による一中若、二中若への支援、伝統芸能体験協力_東中など）							

点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ①放課後子ども教室 <u>一日当たりの参加者数 R3 : 18.4 人 (R2 : 18.7 人、R1 : 18.4 人)</u> 一日あたりの参加者数は前年との比較で 18 人と前年の参加者数を維持できたため、評価はほぼ目標どおりの「B」とした。 図書室等開放については、新型コロナの拡大のため、休校により中止した学校があったほか、拡大時期には各校とも利用者が減ったことにより利用者が伸びなかった。また、体育館開放については、新型コロナの拡大のため、2 月、3 月の開放を中止したことにより、日数及び利用者の減となった。 週末体験活動や放課後子ども総合プランに基づく取組については、新型コロナの拡大のため、週末体験活動 1 回、放課後子ども総合プランに基づく取組 2 回を中止としたが、感染防止策を講じながら多くの活動を実施することができ、昨年度より多くの参加者を得ることができた。 ②講師や安全管理員は地域の方々にお願ひし、地域で子ども達を育てるという意識の醸成を図っている。 ③体験活動では、ふるさと能代を学ぶ体験だけではなく、子ども達が楽しみながら学べるメニューを提供している。 ④スポ少や習い事のため参加できない児童がいるが、実施日を週末に拘らず、夏休みに実施するなど、参加しやすいようにした。 ⑤地域学校協働活動 3 年度から全小・中学校で実施開始。各校に委嘱された推進員が学校・家庭・地域の課題を解決するためのコーディネートを行う活動であるが、実施初年であることに加え、新型コロナのまん延による活動制限など、実施校それぞれの活動に試行錯誤した様子がみられた。そんな中でも学習支援は各学校で取り組まれており、支援を受けた児童や指導にあたった地域の人達それぞれが達成感と満足感を得る活動になったほか、児童に目を配り、声をかけるという部分での教員の負担を軽減することにもつながっている。		
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 () [具体的な課題及び取組] ①学校・家庭・地域の連携強化 ・子どもの居場所づくり、体験活動を通した心豊かで健やかに育まれる環境づくりのため、事業を継続。 ・体験活動を通して、大人と子どもが共に学び合う意識の醸成を図る。 ・アンケート等により、子ども達が知りたい、学びたいメニューの充実を図る。 ②放課後児童クラブとの連携強化 放課後子ども総合プランにおける取組を継続。放課後児童クラブと連携した平日の放課後子ども教室を実施する。 4 年度実施予定ー 児童クラブ設置校 7 校 (淳城西小、淳城南小、第四小、第五小、向能代小、浅内小、二ツ井小) ③地域学校協働活動の浸透 今後は学校・家庭・地域、特に家庭や地域に活動の認知度と浸透を広めるとともに、協働活動への参画を増やし、一方向の支援ではなく、双方向にメリットがある活動へ広げていく必要がある。		

学 識 経 験 者 の 意 見	○実施日を週末だけではなく夏休みにも設定するなど、参加者を増やそうとする 努力が評価できます。課題として挙げているように、今後は子どもたちが知り たい、学びたいメニューの充実を図ってください。 □地域学校協働活動、マナブゥ講座の体験活動、各校のふるさと学習、放課後子 ども教室の活動が一体となり、ふるさとのよさを知り、ふるさとを愛する心を 育てる豊かな活動が展開されています。児童生徒にとってすばらしい学習環境 といえます。
----------------------------	--

基 本 目 標	1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進																																			
施 策 項 目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進																																			
方 針 ・ 目 標	関係機関・団体と連携しボランティアや世代間交流の提供、社会環境づくりなどを行うことで、能代市の将来を担う青少年の自立・成長を促します。																																			
事業・取組名	青少年健全育成事業																																			
目 標 値	中・高生ボランティアの参加割合で、前年度と同等を目指します。																																			
事 務 事 業 の 実 績	1 青少年健全育成事業																																			
	(1) 「令和3年度能代市青少年健全育成活動方針」策定																																			
	広報やホームページに掲載し周知に努めるとともに、重点的な取組としてSNSやネットゲームによるトラブルの防止を掲げ、保護者へ向けリーフレットの配布や講話などを実施し、注意喚起した。																																			
	リーフレット配布・・・全小学校のほか5歳児親子相談の参加者																																			
	保育所等訪問・・・第一保育所ほか全13施設訪問し、啓発活動を実施																																			
	非行防止街頭キャンペーン・・・年2回、能代・二ツ井地域それぞれでリーフレットの配布などを行う（参加者:延べ161人）																																			
	(2) 中高生ボランティア活動実績（課関連事業分）																																			
	<table><tr><td>課関連事業</td><td>回数</td><td>中・高生参加者数</td><td>前年度の参加者数</td></tr><tr><td>社会教育参加活動促進事業「みんなでAction!」 ※マナブウ市、みんなでアクション（中止）</td><td>3回</td><td>60人</td><td>76人</td></tr><tr><td>命の大切さ事業（子育て支援課と連携） ※サンデーすくすくひろば（中止）</td><td>3回</td><td>6人</td><td>11人</td></tr><tr><td>きみまちの里フェスティバル</td><td></td><td>中止</td><td>中止</td></tr><tr><td>中高生ボランティア育成講座(中央公民館) ※吉野郷まつり、のしろ子どもまつり、ひまわり号走る、のしろであいのコンサート（中止）</td><td>6回</td><td>115人</td><td>中止</td></tr><tr><td>計</td><td>12回</td><td>181人</td><td>87人</td></tr><tr><td colspan="2">当該年の能代市の中・高校生の人口</td><td>2,376人</td><td>2,459人</td></tr><tr><td colspan="2">参加割合</td><td>7.6%</td><td>3.5%</td></tr></table>				課関連事業	回数	中・高生参加者数	前年度の参加者数	社会教育参加活動促進事業「みんなでAction!」 ※マナブウ市、みんなでアクション（中止）	3回	60人	76人	命の大切さ事業（子育て支援課と連携） ※サンデーすくすくひろば（中止）	3回	6人	11人	きみまちの里フェスティバル		中止	中止	中高生ボランティア育成講座(中央公民館) ※吉野郷まつり、のしろ子どもまつり、ひまわり号走る、のしろであいのコンサート（中止）	6回	115人	中止	計	12回	181人	87人	当該年の能代市の中・高校生の人口		2,376人	2,459人	参加割合		7.6%	3.5%
	課関連事業	回数	中・高生参加者数	前年度の参加者数																																
	社会教育参加活動促進事業「みんなでAction!」 ※マナブウ市、みんなでアクション（中止）	3回	60人	76人																																
命の大切さ事業（子育て支援課と連携） ※サンデーすくすくひろば（中止）	3回	6人	11人																																	
きみまちの里フェスティバル		中止	中止																																	
中高生ボランティア育成講座(中央公民館) ※吉野郷まつり、のしろ子どもまつり、ひまわり号走る、のしろであいのコンサート（中止）	6回	115人	中止																																	
計	12回	181人	87人																																	
当該年の能代市の中・高校生の人口		2,376人	2,459人																																	
参加割合		7.6%	3.5%																																	
(3) 事故防止の看板設置（河川、沼等）70箇所																																				
2 能代市成人式の開催																																				
(1) 新型コロナにより令和2年度対象者は令和3年1月へ延期したが、収束が見られず令和3年8月に再延期としたが、令和3年度での開催が難しいと判断し中止とした。また令和3年度対象者も感染症のまん延の状況を踏まえ令和4年8月へ延期とした。																																				
(2) 記念品は「木都能代」にちなみ木製品とし、成人式実行委員の選定により令和2年度は「秋田杉製スマホスタンド」、令和3年度は「コースター」とした。																																				

	(3) 出席者の推移 <table border="1" data-bbox="459 197 1219 409"> <thead> <tr> <th></th><th>対象者</th><th></th><th>出席者</th><th>出席率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td><td>H12.4.2～H13.4.1 生</td><td>428 人</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>R2</td><td>H11.4.2～H12.4.1 生</td><td>469 人</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>R1</td><td>H10.4.2～H11.4.1 生</td><td>511 人</td><td>416 人</td><td>81.4%</td></tr> <tr> <td>H30</td><td>H 9.4.2～H10.4.1 生</td><td>529 人</td><td>407 人</td><td>76.9%</td></tr> </tbody> </table> ※R4 へ延期 ※開催中止						対象者		出席者	出席率	R3	H12.4.2～H13.4.1 生	428 人	—	—	R2	H11.4.2～H12.4.1 生	469 人	—	—	R1	H10.4.2～H11.4.1 生	511 人	416 人	81.4%	H30	H 9.4.2～H10.4.1 生	529 人	407 人	76.9%
	対象者		出席者	出席率																										
R3	H12.4.2～H13.4.1 生	428 人	—	—																										
R2	H11.4.2～H12.4.1 生	469 人	—	—																										
R1	H10.4.2～H11.4.1 生	511 人	416 人	81.4%																										
H30	H 9.4.2～H10.4.1 生	529 人	407 人	76.9%																										
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る																											
	[説明] 中・高生ボランティアの参加割合 7.6% (R2:3.5%、R1:14.8%、H30:14.1%) 新型コロナの影響により中止された活動もあったが、機会を捉えて開催し、中・高生の参加につなげることができた。2年度は参加者数の多くを占める中・高生ボランティア育成講座がコロナにより中止されているため、評価はほぼ目標どおりの「B」とした。 ①新型コロナにより、中止や規模縮小となるイベントが増えていたが、中高生ボランティア育成講座では多くの子どもたちの参加があった。参加者からは社会貢献や地域貢献だけでなく、他校の生徒とも交流ができ有意義であったとの意見があった。 ②青少年健全育成活動は、SNSやネットゲームによるトラブルの防止を重点的な取組とし、保護者へリーフレットによる注意喚起と家庭での見守りによる適切な利用を推進した。端末所持率が高まり低年齢化がみられるため、幼稚園・保育所等を巡回したほか、講話等により若い親世代への啓発活動を実施した。 ③成人式の開催は、新型コロナの収束が見られない中、令和2年度対象者は延期してでも実施したいとの意見が多かったため、令和3年1月へ延期、8月へ再延期したが、その後令和3年度での開催が難しいとの判断から開催中止とした。令和3年度対象者も感染症のまん延状況を踏まえ令和4年度へ延期とした。																													
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	□拡充 ■継続 □廃止検討 □その他 () [具体的な課題及び取組] ①中・高生ボランティアの参加促進 新型コロナの影響により、活動機会の減少が見込まれるが、関係機関・団体と連携し、中・高生にボランティアの機会を提供しながら異世代間交流や社会参加することにより、青少年の自立・成長を促していく。 ②関係機関との連携 ・引き続き関係機関や団体と連携しながら、青少年健全育成活動に努める。 ・能代市民会議等の会員の高齢化が懸念されており、中・高校生へ非行防止キャンペーン等への参加を働きかけ、世代間交流を図るとともに、活動を通して将来地域を支える若者の育成や互いの活動が充実するよう支援していく。 ③成人式の開催 新型コロナの影響により、県内外から多くの若者が集う成人式の開催が困難となっている。新型コロナに配慮した安全な開催方法について、あらゆる検討が必要となっている。																													

学 識 経 験 者 の 意 見	○新型コロナウイルス感染症の影響により、成人式などの重要な事業が中止や延期となっていますが、可能なことはきちんと実施できていると思います。来年度の実施に向けて計画を慎重に立案し、準備を進めてください。 □ボランティア活動の意義とその重要性については、これまで各校で十分な指導が行われています。ボランティア活動への理解をより一層深めるためにも、「中高生ボランティア活動」の推進に努めてほしいと思います。
--------------------	--

基 本 目 標	1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進					
施 策 項 目	① 学校・家庭・地域の連携協力の推進					
方 針 ・ 目 標	市民の興味や関心を高めるような、施設を利用したイベント・講座を提供し、子どもから大人まで幅広く気軽に交流できる子ども館を目指します。					
事業・取組名	子ども館活動事業					
目 標 値	講座満足度アンケートの、「満足」「やや満足」の割合で、90%以上を目指します。					
事 務 事 業 の 実 績	1 講座満足度アンケート【5段階評価で平均 4.86 (4.84)】					
	項目	満足	やや満足	ふつう	やや不満足	不満足
	人数(人)	570(433)	57(45)	16(12)	1(1)	0(2)
	割合(%)	88.5(87.8)	8.8(9.1)	2.5(2.5)	0.2(0.2)	0.0(0.4)
	※()は2年度数値					
	・「満足」「やや満足」の割合 97.3% (96.9%)					
	2 来館者の推移					
	区分	3年度	2年度	元年度		
	総 来 館 者 数	26,498 人	22,051 人	31,480 人		
	プラネタリウム観覧者数	5,448 人	4,275 人	5,580 人		
事業活動参加者数	233 件、2,315 人	214 件、3,679 人	259 件、3,582 人			
プラネタリウム団体観覧者数	60 件、1,548 人	40 件、1,250 人	49 件、1,607 人			
3 イベント・講座等実績 ※()は2年度実績						
(1) 主なイベント・講座						
・ペットボトルロケット教室			12 件、89 人 (7 件、60 人)			
・モデルロケット教室			12 件、107 人 (6 件、71 人)			
・「はやぶさの日」イベント			8 件、101 人 (4 件、86 人)			
・自然観察会			3 件、26 人 (2 件、17 人)			
・風の松原チャレンジ!			3 件、28 人 (2 件、13 人)			
・かがくあそび			12 件、169 人 (13 件、186 人)			
・ロボット・プログラミング講座			23 件、158 人 (30 件、208 人)			
・星空観察会			5 件、122 人 (4 件、62 人)			
・『N. らぼ』の科学実験 (旧・サイエンスポケットのおもしろ科学実験)			1 件、15 人 (2 件、42 人)			
・わくわくミニ工作			7 件、98 人 (12 件、102 人)			
・コズミックカレッジ			17 件、179 人 (1 件、19 人)			
・マジック・サイエンス			2 件、25 人 (1 件、16 人)			
(2) 特別イベント						
・「はやぶさの日」イベント プラネタリウム無料投映			10 回、291 人 (9 回、154 人)			
・野口宇宙飛行士 地球帰還生中継番組パブリックビューイング			9 人			
・【中止】のしろ銀河フェスティバル						

	(3) 宇宙科学への関心を高める工夫 ・子ども館宇宙検定の実施					
		上級	中級	初級		
	参加者数	8 人(7 人)	13 人(13 人)	29 人(60 人)		
	合格者数	5 人(5 人)	7 人(4 人)	27 人(48 人)		
	・子ども館ウォークラリーの実施 27 組、83 人 (31 組、100 人) ・2 階展示室「宇宙館」ガイドの実施 31 件、585 人 (27 件、831 人)					
点 検 ・ 評 価	評価	A	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る			
	[説明] ①講座満足度アンケートは「満足」「やや満足」と答えた参加者の割合が 97.3%と目標を上回っており、引き続き事業内容の充実に努めたい。 ②新型コロナにより募集定員を半分程度に削減していることから、できるだけ多くの子ども達が参加できるよう、各種ロケット教室やコズミックカレッジ等の宇宙関連講座の回数を増やして実施した。特にロケット教室は打ち上げに競技形式を取り入れるなど、参加者の目的意識を持たせるよう工夫した。					
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 ()					
	[具体的な課題及び取組] ①子ども館事業の充実 驚きや感動を引き出す科学実験講座の実施、季節に合わせた体験活動の積み重ね、リピーターや新規利用者の獲得につなげる人気事業の実施回数増等、事業の充実を図る。 ②宇宙教育の充実 ・モデルロケット教室やペットボトルロケット教室の開催 ・JAXA や日本宇宙少年団ノシロ分団等の関連機関・団体との連携 ・宇宙教育の情報発信 (JAXA 動画ニュース等の放映) ③小・中学校、高校との連携強化 ・学習プラネタリウム (プラネタリウムを用いた天体関連の授業) の実施 ・施設見学、職場体験 (中学生)、インターンシップ (高校生) 等の受け入れ ④デジタルプラネタリウムの活用 プラネタリウム番組の投映のほか、3 次元シミュレーションによる宇宙空間の飛行体験や太陽系の俯瞰など、デジタルプラネタリウムならではの多彩な機能を活用した事業を実施し、利用の拡大を図る。 ⑤1 階展示室のリニューアル 市が掲げる「宇宙のまち」を感じることができる身近な施設として、展示テーマを「宇宙」とし、宇宙や科学について、子ども達が楽しみながら遊び学べる要素を取り入れたリニューアルを進める。					
学 識 経 験 者 の 意 見	☐ ペットボトルロケット教室など興味深い内容が盛りだくさんで、「A」評価通りの充実した活動ができている様子が見受けられます。1 階展示室のリニューアルなど、引き続き活発に活動が続けて頂ければ、と思います。 ☐ 市民の興味・関心を高めるような施設環境が整ってきています。したがって、満足度アンケート結果も目標値を高めています。今後、1 階展示室の「3 つのラボ」、2 階までの吹き抜け部分の「シンボル展示」等を充実させてください。 ☐ 宇宙のまち能代のよさを味わうことができる事業を推進し、学校との連携を図りながら多くの児童生徒が参加できるような学習の場を設定してください。					

基 本 目 標	1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進					
施 策 項 目	② 保護者への学習機会の提供等による家庭教育の支援					
方 針 ・ 目 標	核家族化や少子化、産業構造の変化など、子どもや家庭を取り巻く状況が大きく変化しており、保護者に対し様々な手法で学習機会を提供し、家庭教育を支援します。					
事業・取組名	家庭教育支援事業					
目 標 値	保護者を対象とした家庭教育関係講座の実施回数で、前年度と同等を目指します。					
事 務 事 業 の 実 績	1 庁内連携 (1) 家庭教育支援事業推進会議（3月） ※書面開催 (2) 家庭教育支援事業報告書を作成し関係者に配布（4月）					
	2 情報提供 (1) 家庭教育通信「Only one」を発行（3回）					
	3 学習機会の提供 (1) 家庭教育関係講座の実施 (件、人)					
	対 象	講座名	3 年度		2 年度	
			講座数	参加者数	講座数	参加者数
	保護者	家庭教育関係講座 ※中止講座あり	18	808	19	922
	次 代 の 親	家庭教育関係講座	5	376	4	472
		社会参加活動促進事業 「みんなで Action!」 (命の大切さ事業含む)	6	中高生 66 受入団体215	14	中高生 87 受入団体292
	祖父母	じじばばの孫かて講座	中止	—	2	18
(2) 「家庭教育に関する・家読におすすめの本」の貸出						
		3 年度		2 年度		
利用者数		貸出冊数		利用者数		
貸出冊数				貸出冊数		
50 人		109 冊		56 人		
				96 冊		
4 人材の育成 祖父母等への学習機会の提供 「じじばばの孫かて講座」 ※コロナの影響により中止						
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る			
	[説明] 保護者を対象とした家庭教育関係講座の実施回数 18 回 (R2 : 19 回、R1 : 22 回、H30 : 30 回) 令和3年度の保護者を対象とした家庭教育関係講座の実施回数は、概ね目標値を達成(95%)しており、評価はほぼ目標どおりの「B」とした。 ①小・中学校で新型コロナウイルス感染者が急増したことにより、申し込みが減少した。 また、休校になった時期と重なり、予定していた講座も中止になったため講座					

	数、参加者数が減少した。 ②祖父母等を対象とした「孫かて講座」は、新型コロナの影響により中止した。 ③家庭教育関係講座のアンケート結果は、「とても参考になった」等の評価が多い。新型コロナの影響で中止となる講座もあったが、新たにオンライン配信やZoomの活用、期間限定でYouTube配信するなど、講座の形式に変化がみられた。 ④家庭教育通信（Only one）の認知度は非常に高い。特に子育て家庭でよく読まれている。
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐拡充 ☒継続 ☐廃止検討 ☐その他（ ） 〔具体的な課題及び取組〕 ①手軽に読める「家庭教育に関する・家読におすすめの本」の貸出 利用者が減少傾向にある。子育て中で時間に余裕がなくても、さっと読めるものや家庭教育に関する本を能代図書館に選書を依頼し、保護者の学習機会の充実を図る。 ②プレ親（次代の親となる中学生・高校生）を対象とした講座等の充実 ・命の大切さ事業（赤ちゃんとふれあい）を継続する。 ・プレ親（中学生）を対象とした性教育講座、命の大切さ講座について、全生徒が受講できるよう、引き続き学校に働きかける。
学 識 経 験 者 の 意 見	○講座数・参加者数が減少したり、祖父母等を対象とした「孫かて講座」が中止となったりしたのは残念ですが、新型コロナウィルス感染による影響ですので、仕方ないと思われます。本事業はユニークな取り組みであると思いますので、綿密な計画を立てたうえで、実施に向けて努力して頂くようお願いします。 ☐コロナ禍により実施できなかった事業がありますが、目標を達成すべき計画は十分できています。今後、各事業内容を吟味し、来年度の実施に向けて準備を進めてください。

基 本 目 標	1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進		
施 策 項 目	③ 地域活動に必要な学習機会の提供		
方 針 ・ 目 標	子どもの体験活動等に関わるコーディネーター等を対象に学習機会及び情報交換の場を提供し、資質向上を図り体験活動の推進・充実を図ります。		
事業・取組名	コーディネーター等研修事業		
目 標 値	事業や活動の充実を図るため、担当者を対象とした学習機会を提供し、資質向上や活動の充実を図ります。		
事 務 事 業 の 実 績	1 放課後子ども教室コーディネーター会議（4/21 開催） 参加者 6 人（7 人対象） 内 容 コーディネーターの役割や情報交換 2 普通救命講習会 ※新型コロナ感染拡大のため中止 当初、7/3、7/7、7/9 の日程により実施することとしたが、中止とした。 再度、8/3、8/5 の日程により実施することとしたが、中止とした。 ※新型コロナの状況が見通せなかったため、3 年度の救命講習会は中止することとした。 3 地域学校協働活動推進員等を対象とした研修会等 3 年度から全小・中学校で地域学校協働活動を実施するに当たり、校長、教頭、活動推進員を対象に説明を行い、事業の周知を図った。（5/7 開催） また、県主催の研修会への参画を図り、活動の充実と推進員の資質向上を図った。（6/4、7/30、11/12）		
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] 地域学校協働活動推進員を対象とした研修会では、県が主催するオンライン研修会の情報提供を行い、推進員の資質向上を図ることができ、評価はほぼ目標どおりの「B」とした。 ①年度初めの会議は、各地域で活動しているコーディネーターが一堂に会し、前年度の活動内容を振り返るとともに、新年度の活動や役割を確認し合うことができる有意義な会議であった。 放課後子ども教室コーディネーター会議参加者 6 人（7 人対象） 参加率 86% ②普通救命講習会は、夏休みのプール開放前に実施している。監視にあたる安全管理員全員が受講し、事故を未然に防ぐ対策を講じることを目的に行っているが、新型コロナの状況が見通せなかったため、やむなく中止とした。 ③地域学校協働活動への理解を深めるため、関係者を対象とした説明会等を実施した。説明会終了後、それぞれの学校の校長、教頭、活動推進員が集まり、説明会の内容を踏まえた情報交換を行い、互いに情報共有を行った。		
課 題 及 び 今後の取組の方向性	☐拡充 ☒継続 ☐廃止検討 ☐その他（ ） [具体的な課題及び取組] ①研修・講習内容の充実 ・個々のコーディネート力を尊重しつつ、豊富な社会経験を持つ外部人材との協力も得ながらスキルアップを図る。 ・県主催の研修への参加を勧奨し、市外の取組も参考に幅広い視野での活動が		

	できるよう促す。 ・他の体験活動への参加等によりコーディネーター同士の連携強化を図る。 ②学校・家庭・地域との連携 ・学校訪問により、学校との連携を密にし、より充実した活動とする。 ・コーディネーターの高齢化に伴い、新たな後継者の発掘や育成につながるよう、情報交換しながらコーディネーターを支援していく。 ・地域学校協働活動は全校実施の初年となるため、まずは学校からの要請に基づき、家庭科や算数などの学習支援や、伝統芸能やクラブ活動への講師紹介など学校と地域を結ぶ活動や、学校祭などの行事への支援をとおしてPTAなどとの連携も進めていくことを目指し進めていく。
学 識 経 験 者 の 意 見	○水の事故から子どもを守る救急法を学ぶ場としての普通救命講習会は、重要なものと思われます。コロナ禍での中止は致し方ないところではありますが、やり方を工夫するなどして、継続して続けてほしいと考えます。 □令和3年度から実施された地域学校協働活動が、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を目指した活動となっています。推進員の方々は、学校と地域をつなぐコーディネーターの役割を担っていますので、学校運営協議会との連携を図って学校の様々な活動に関わってください。

基 本 目 標	1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進
施 策 項 目	④ 読書活動の推進
方 針 ・ 目 標	第2次能代市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするため、子どもの発達段階に応じた取組を推進します。
事業・取組名	読書活動推進事業
目 標 値	県学習状況調査による不読率で県平均を下回るよう目指します。 ※不読率＝1カ月に1冊も本を読まない子どもの割合
事 務 事 業 の 実 績	第2次能代市子ども読書活動推進計画（計画期間は R2～R6 年度の5年間）に基づいた取組を行った。 1 啓発活動 （1）読書活動推進関係事業の実施 ＜新型コロナの影響により中止＞ （2）読書記録用「能代っ子家読通帳」の作成・配布 ・市内小学校児童・中学校生徒へ配布した。 （3）秋田杉製ブックスタンド作成・配布 ・小学4年生を対象に、秋田杉製ブックスタンドキットを配布した。 ・図工の授業で組み立てを行い、家に持ち帰って活用してもらった。 （4）うちどくDAY（毎月第3日曜日）のポスターを作成し、小・中学校及び関係機関へ配布した。 （5）各学校への働きかけ ・各校の読書活動に関するアンケートを実施し、読書活動の充実へ向けた各校の取組を共有した。（7/27 図書支援員研修会） ・学校教育課と市立図書館、生涯学習・スポーツ振興課が連携して5月25日に「読書活動推進研修会」を開催し、各校の図書館担当教諭及び図書支援員の共通理解を図るとともに、読書指導や学校図書館運営に関する力量の向上に努めた。 2 環境整備 （1）「読んでみて！わたしの推し本」図書紹介（広報のしろ掲載 全11回） ・学校や地域おこし協力隊等に本の紹介をお願いし、毎月10日号へ掲載した。 （2）指定管理者と連携した図書館の管理運営 ・指定管理者と連携した事業の開催や定期的な打ち合わせを実施することで、図書館の運営・取組実施への連携・協力に努めた。 （3）学校図書館図書標準達成状況の改善 ・各校の学校図書館図書標準達成状況に応じた図書整備費を措置した。 ・年度末に図書標準達成状況調査を行って状況を把握し、校長会、教頭会、各研修会等で改善を図るよう説明した。

	【学校図書標準の達成率】 予算の重点配分等により図書状況が安定してきている。小・中学校ともに平均で 100%を超えている。 <table border="1"> <tr> <th>学校／年度</th><th>R 3</th><th>R 2</th></tr> <tr> <td>小学校平均</td><td>116.5%</td><td>111.3%</td></tr> <tr> <td>中学校平均</td><td>113.8%</td><td>112.7%</td></tr> </table>			学校／年度	R 3	R 2	小学校平均	116.5%	111.3%	中学校平均	113.8%	112.7%																																					
学校／年度	R 3	R 2																																															
小学校平均	116.5%	111.3%																																															
中学校平均	113.8%	112.7%																																															
点 検 ・ 評 価	評価 B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る																																															
	【説明】 不読率について 県平均を下回る学年が多く、本市の子どもはよく読書をしている方だが、1 学年だけ県平均を上回ったため、評価はほぼ目標どおりの「B」とした。 【令和3年度県学習状況調査 質問紙結果】 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">学 年</th><th colspan="2">R 3</th><th rowspan="2">比較</th><th colspan="2">R 2</th><th rowspan="2">比較</th></tr> <tr> <th>能代市</th><th>県平均</th><th>能代市</th><th>県平均</th></tr> <tr> <td>小学4年</td><td>1.1%</td><td>3.7%</td><td>－2.6P</td><td>8.1%</td><td>3.6%</td><td>＋4.5P</td></tr> <tr> <td>小学5年</td><td>1.6%</td><td>5.3%</td><td>－3.7P</td><td>0.3%</td><td>5.1%</td><td>－4.8P</td></tr> <tr> <td>小学6年</td><td>4.3%</td><td>6.4%</td><td>－2.1P</td><td>0.3%</td><td>6.1%</td><td>－5.8P</td></tr> <tr> <td>中学1年</td><td>6.7%</td><td>9.0%</td><td>－2.3P</td><td>6.6%</td><td>7.2%</td><td>－0.6P</td></tr> <tr> <td>中学2年</td><td>9.6%</td><td>8.8%</td><td>＋0.8P</td><td>8.1%</td><td>9.4%</td><td>－1.3P</td></tr> </table>			学 年	R 3		比較	R 2		比較	能代市	県平均	能代市	県平均	小学4年	1.1%	3.7%	－2.6P	8.1%	3.6%	＋4.5P	小学5年	1.6%	5.3%	－3.7P	0.3%	5.1%	－4.8P	小学6年	4.3%	6.4%	－2.1P	0.3%	6.1%	－5.8P	中学1年	6.7%	9.0%	－2.3P	6.6%	7.2%	－0.6P	中学2年	9.6%	8.8%	＋0.8P	8.1%	9.4%	－1.3P
学 年	R 3		比較		R 2			比較																																									
	能代市	県平均		能代市	県平均																																												
小学4年	1.1%	3.7%	－2.6P	8.1%	3.6%	＋4.5P																																											
小学5年	1.6%	5.3%	－3.7P	0.3%	5.1%	－4.8P																																											
小学6年	4.3%	6.4%	－2.1P	0.3%	6.1%	－5.8P																																											
中学1年	6.7%	9.0%	－2.3P	6.6%	7.2%	－0.6P																																											
中学2年	9.6%	8.8%	＋0.8P	8.1%	9.4%	－1.3P																																											
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐拡充 ☒継続 ☐廃止検討 ☐その他（ ） 【具体的な課題及び取組】 ・指標としている県学習状況調査において、県平均を下回っている学年が多いが、県平均をわずかではあるが上回った学年もあった。 ・子ども読書活動推進計画に基づき、学校・家庭・地域の連携を図りながら施策を実施し、啓発活動を行っていく。																																																
学 識 経 験 者 の 意 見	○「読んでみて！わたしの推し本」のような図書紹介は、子どもたちの読書習慣を後押しするものなので、これからも継続してほしいと思います。なお小学校5・6年生の不読率が令和2年度には極めて低かったが、令和3年度は上昇しているようなので、原因を探って改善の手がかりとしてくださるよう、お願いします。 ☐学校図書標準の達成率が、小・中学校ともに平均で 100%を超えており、図書状況が十分といえます。 ☐昨年に引き続き、不読率は、県平均を下回る学年が多くなっています。今後も手立てを講じて読書活動を推進してほしいと思います。																																																

基 本 目 標	1 学校・家庭・地域・行政が一体となった、次代を生きる子どもたちを育むまちづくりの推進
施 策 項 目	⑤ 食育の推進
方 針 ・ 目 標	1 健康的で豊かな食生活を実践し、食育推進に取り組みます。 2 食の安全・安心に関する知識の提供に努めます。
事業・取組名	1 学校給食事業 2 食について理解を深める体験活動事業
目 標 値	1 朝食を毎日食べる子どもの割合を増やします。 2 学校給食における地場産農産物の使用に努めます。
事 務 事 業 の 実 績	1 学校給食事業 - 給食だよりを毎月発行し、家庭へ食育情報を提供した。また、給食献立表を通して、朝ごはんの効果等をアピールし、「早寝・早起き、朝ご飯」を推進した。(各調理場月 1 回) - 食育だよりを発行し、家庭へ食育情報を提供した。(3 調理場延べ 19 回) - 栄養教諭が給食時間に訪問し、食事に関する情報提供を行った。(3 調理場延べ 7 回) - 栄養教諭による、食事と健康に関する食育授業を行った。(3 調理場延べ 24 回) - 食育の日(毎月 19 日)に地場産物を多く使った献立を提供した。(各調理場月 1 回) - 東京 2020 大会ホストタウン事業に参画、ヨルダンにちなんだ献立と資料を提供し、食を通してヨルダンの文化について理解を深めた。(各調理場 1 回) - 給食写真や給食に関する話題、地域の食材を第四小学校のブログで紹介。栄養教諭が毎日更新している。(南部共同調理場) - 特別活動で 6 年生児童が考えた「おいしいだけじゃない!学校の課題を解決する学校給食献立」(5 班分)を実際の給食で提供した。(二ツ井共同調理場・二ツ井小) 3 年度の新たな取組み「天空の能代まんぷく給食」として、地域の食材を使った能代らしさがつまった給食(3 調理場の栄養士で考案した市内小中学校統一メニュー)を提供。当日は、それにかかわる給食一口メモや家庭へのお便りを配布し、地域の食材への理解を深めた。ネーミングは児童生徒から募集。(各調理場 1 回) 2 食について理解を深める体験活動事業 - 給食保護者試食会や P T A において、食育に関する講話、資料提供を行った。(3 調理場延べ 4 回) - 放課後子ども教室において食に関する講座を開催した。(4 回、延べ 58 人) - 中央公民館、二ツ井公民館、各地区公民館などにおいて、食に関する講座を開催した。(17 回、延べ 305 人)

点 検 ・ 評 価	評価	B		A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る																							
	[説明] ① 朝食を毎日食べる子どもの割合【全国学力・学習状況調査】 <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>3 年度</td> <td>2 年度</td> <td>元年度</td> </tr> <tr> <td>市</td> <td>94.6%</td> <td>96.5%</td> <td>95.7%</td> </tr> <tr> <td>県平均</td> <td>95.9%</td> <td>96.2%</td> <td>96.5%</td> </tr> </table> ② 学校給食における主な県内産野菜の使用割合【学校給食物資使用調査】 <table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td>2 年度</td> <td>元年度</td> <td>3 0 年度</td> </tr> <tr> <td>市</td> <td>24.9%</td> <td>35.6%</td> <td>33.4%</td> </tr> <tr> <td>県平均</td> <td>29.6%</td> <td>33.9%</td> <td>30.6%</td> </tr> </table> [評価] 地場産農産物の使用割合が前年度数値を下回った理由として、日常的に使用するキャベツ、大根、白菜等の地場産野菜が、天候等の理由で確保できなかったことが考えられる。その一方で、産地直売所の協力を得て地場産野菜を活用した献立作成や、安定確保に向けた話し合いも行うなど、地場産活用に向けた取組みも見られ、ほぼ目標どおりの成果となった。				年度	3 年度	2 年度	元年度	市	94.6%	96.5%	95.7%	県平均	95.9%	96.2%	96.5%	年度	2 年度	元年度	3 0 年度	市	24.9%	35.6%	33.4%	県平均	29.6%	33.9%
年度	3 年度	2 年度	元年度																								
市	94.6%	96.5%	95.7%																								
県平均	95.9%	96.2%	96.5%																								
年度	2 年度	元年度	3 0 年度																								
市	24.9%	35.6%	33.4%																								
県平均	29.6%	33.9%	30.6%																								
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 ()																										
	[具体的な課題及び取組] ① 栄養教諭による食育指導 ・ 栄養教諭による教科等と連携した栄養指導を行う。 ・ 保護者へのレシピ配付や親子で参加する教室の開催、給食試食会での栄養士の講話など、家庭で話題にできる講座の実施を推進していく。 ・ コロナ感染症予防対策等の影響により、給食時間における訪問や食育授業等の開催が難しくなっている。I C T の活用等食育指導の手法について検討が必要である。 ② 学校給食における地場産農産物の使用 ・ 地場産野菜等は、安定した量が確保できないため、産地直売所等と情報を共有しながら、収穫時期に合わせた献立を考える必要がある。3 年度は、産地直売所（みょうが館）と栄養教諭による打合せを行い、地場産野菜の活用について話し合っており、引き続き、連携を図りながら使用拡大に努めていく。 ・ 3 年度は、産地直売所の協力をいただき、市内小中学校統一メニュー「天空の能代まんぷく給食」を実施した。今後も継続して実施していくためには、数量の確保や給食に使用しやすい食材等の課題がある。J A や産地直売所、農業振興課から情報を得ながら、どのような連携ができるのか検討していく。 ・ 独創性のある学校給食事業についてマスコミへの情報提供を積極的に行い、テレビや新聞に取り上げてもらうことにより、家庭や地域へ学校給食の地場産物活用等について P R していく。																										
学 識 経 験 者 の 意 見	○朝食を毎日食べる子どもの割合が、令和3年度は減少していますので、対策を講じるようお願いします。また地場産農産物の使用割合についても、高める方策を考えて頂きたいです。																										

	□学校給食における地場産農産物の使用割合が低くなっていますので、食育の日に限らず、1か月の献立を計画する際に、積極的に地場産の食材を取り入れて計画していくべきです。 □「天空の能代まんぷく給食」は、地域の食材への理解を深めることができたよい取組となりました。
--	---

基 本 目 標	2 豊かな人間性を育む学校教育の推進																																															
施 策 項 目	① 主体的で創意ある教育活動の推進																																															
方 針 ・ 目 標	児童生徒の感性を磨き、創造力を豊かにするために、ふるさと教育の推進や宇宙・科学技術の学びの充実を図るなど、各学校の主体的で創意ある教育活動を推進します。																																															
事業・取組名	1 ふるさと教育・キャリア教育の趣旨を生かした教育活動の推進 2 地域と学校が一体となる学校運営協議会（コミュニティ・スクール）制度の構築																																															
目 標 値	1 県学習状況調査質問紙の「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」の項目で、県平均を上回るよう目指します。 2 各学校の特色ある教育活動について学校運営協議会で評価し、その結果を公表します。																																															
事務事業の実績	1 ふるさと教育の推進と地域に根ざしたキャリア教育の充実 中学校のふるさと会議は、コロナ禍のため中止としたが、各校において感染対策を施し、可能な限り特色あるキャリア教育が実施された。 2 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育計画の立案と実践・評価 学校・家庭・地域が相互に連携した教育活動の在り方を検証するため、「あきた型学校評価システム」による学校関係者評価を実施し、市内13校全ての小・中学校でその結果を公表した。																																															
点 検 ・ 評 価	評価	A	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る																																													
	[説明] 1 ふるさと教育・キャリア教育の趣旨を生かした教育活動の推進 ①二ツ井小・中の取り組み例 模擬会社「きみまちカンパニー」を設立し、生徒会長を社長として、自分たちの地域をどのように元気付けるかというテーマのもと、宣伝、福祉、商品開発等の部門に分かれ、アイディアを出し合った。10月30日に、商店街を会場に、「きみまちカンパニーフェスティバル」を開催した。多くの人が来場し、地域に活気が出たと好評であった。 ②秋田県学習状況調査質問紙の結果より 【地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う】 <table><tr><th rowspan="2">学 年</th><th colspan="2">R 3</th><th rowspan="2">比較</th><th colspan="2">R 2</th><th rowspan="2">比較</th></tr><tr><th>能代市</th><th>県平均</th><th>能代市</th><th>県平均</th></tr><tr><td>小学4年</td><td>94.2%</td><td>92.4%</td><td>+1.8P</td><td>90.4%</td><td>92.6%</td><td>-2.2P</td></tr><tr><td>小学5年</td><td>92.9%</td><td>90.7%</td><td>+2.2P</td><td>92.2%</td><td>91.0%</td><td>+1.2P</td></tr><tr><td>小学6年</td><td>92.4%</td><td>90.5%</td><td>+1.9P</td><td>95.4%</td><td>90.4%</td><td>+5.0P</td></tr><tr><td>中学1年</td><td>91.5%</td><td>90.1%</td><td>+1.4P</td><td>95.1%</td><td>89.3%</td><td>+5.8P</td></tr><tr><td>中学2年</td><td>91.2%</td><td>88.6%</td><td>+2.6P</td><td>90.0%</td><td>88.3%</td><td>+1.7P</td></tr></table> 全ての学年で県平均を上回った。 2 地域と学校が一体となる学校運営協議会（コミュニティ・スクール）制度の構築 「あきた型学校評価システム」により、学校関係者評価を実施し、全ての小・中学校において学校報やホームページ等でその結果を公表し、その評価をもとに、学校運営協議会等と連携して、改善に生かした。また、地域学校協働			学 年	R 3		比較	R 2		比較	能代市	県平均	能代市	県平均	小学4年	94.2%	92.4%	+1.8P	90.4%	92.6%	-2.2P	小学5年	92.9%	90.7%	+2.2P	92.2%	91.0%	+1.2P	小学6年	92.4%	90.5%	+1.9P	95.4%	90.4%	+5.0P	中学1年	91.5%	90.1%	+1.4P	95.1%	89.3%	+5.8P	中学2年	91.2%	88.6%	+2.6P	90.0%	88.3%
学 年	R 3		比較		R 2			比較																																								
	能代市	県平均		能代市	県平均																																											
小学4年	94.2%	92.4%	+1.8P	90.4%	92.6%	-2.2P																																										
小学5年	92.9%	90.7%	+2.2P	92.2%	91.0%	+1.2P																																										
小学6年	92.4%	90.5%	+1.9P	95.4%	90.4%	+5.0P																																										
中学1年	91.5%	90.1%	+1.4P	95.1%	89.3%	+5.8P																																										
中学2年	91.2%	88.6%	+2.6P	90.0%	88.3%	+1.7P																																										

	活動推進員と連携して、ふるさと・キャリア教育を進めることができた。
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] 1 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育計画の立案と実践・評価 ・設置3年目となった学校運営協議会において、学校や地域の実情に応じた特色ある教育計画の立案と実践・評価がなされるように同協議会を有効に機能させる。 2 ふるさと教育の推進と地域に根ざしたキャリア教育の充実 ・能代っ子中学生ふるさと会議を開催する。能代っ子中学生ふるさと会議は議会形式としての開催を継続し、代表校による提言に基づいた全体での話し合いの充実を図る。また、県と連携した事業として中学生企業説明会を継続する。（三町と合同） ・二ツ井小学校、二ツ井中学校における取り組みを、地域創生として引き続き推進する。また、同地区の取り組みを市内各校に紹介する。
学 識 経 験 者 の 意 見	○模擬会社「きみまちカンパニー」を設立した二ツ井小・中の取組は、大変優れていると考えます。他の学校で実施するのはハードルが高いと思いますが、何らかの形で取り入れることを検討して頂ければと思います。また地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う小中学生の割合が、すべての学年で県平均を上回るなど、ふるさと教育・キャリア教育が順調に進んでいることが伺えます。 ☐ 各小・中学校が地域や関係機関との連携を図って豊かな体験活動を進めています。コミュニティ・スクール制度が構築された成果と考えます。 ☐ 秋田県学習状況調査質問紙の項目、「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」について、全学年が県平均を上回っているのが評価できます。ふるさとキャリア教育が各校で推進された結果ととらえます。

基 本 目 標	2 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施 策 項 目	② 心豊かでたくましい子どもを育てる指導
方 針 ・ 目 標	いじめや不登校等の問題について、未然防止や早期発見等、適切な対応に努めます。
事業・取組名	自己実現を支える生徒指導
目 標 値	1 県学習状況調査の質問紙において、「学校が楽しい」の項目が県平均を上回るようにします。 2 不登校の出現率が県平均を下回るようにします。
事 務 事 業 の 実 績	自己実現を支える生徒指導 1 心の教室相談員の配置 ・ 小学校7校中5校に5名（兼務なし）、中学校6校中6校に6名（兼務なし）配置 ・ 1年間に心の教室を訪れた人数（延べ人数） 14,151人、相談件数468件 2 スクールカウンセラーの配置（県委託） 中学校：6校中6校に2人（兼務あり）配置 ・ 1年間でS Cを利用した人数（延べ人数） 588人 3 適応指導教室「はまなす広場」の設置（不登校児童生徒への個別指導） ・ 通級者13人 週に1回～数回の通級等 ・ 登校に向けて風の子電話との連携を強化 4 「風の子電話」の設置（電話や来所による教育相談） ・ 年間相談件数 電話17件、来所36件（不登校19件、教職員との関係1件、いじめや交友関係5件、学業・進路25件、家族関係3件） ・ 学校や教育研究所、適応指導教室、他機関との連携 5 不登校保護者会の開催（不登校児童生徒をもつ保護者の援助活動） ・ 毎月第3木曜日19:00～21:00 ・ 12回開催、保護者延べ20人参加。生徒の改善（回復傾向）へ関わる。 6 各小・中学校への指導 ・ 不登校対策事業についてのリーフレット等の保護者への配付と市ホームページへの掲載 ・ 各校におけるいじめ・不登校の現状や支援を要する児童生徒についての月例報告とそれに対する指導助言 ・ 市生徒指導主事会での児童生徒に関する情報交換やいじめ・不登校未然防止の取組の呼びかけ ・ Q-Uアンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の実施と分析。 小学校5・6年、中学校1・2年で年2回実施。中学校1年生はよりきめ細かな分析ができるhyper-QUを実施。

点 検 ・ 評 価	評価	B A 目標を上回る C 目標をやや下回る B ほぼ目標どおり D 目標を大幅に下回る																																																
	[説明] 1 県学習状況調査の質問紙において、「学校が楽しい」の項目で全対象学年が90パーセント以上であったが、小6、中2でわずかではあるが県平均を下回った。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学 年</th> <th colspan="2">R 3</th> <th rowspan="2">比較</th> <th colspan="2">R 2</th> <th rowspan="2">比較</th> </tr> <tr> <th>能代市</th> <th>県平均</th> <th>能代市</th> <th>県平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学4年</td> <td>96.0%</td> <td>92.2%</td> <td>+3.8p</td> <td>90.8%</td> <td>93.6%</td> <td>-2.8p</td> </tr> <tr> <td>小学5年</td> <td>95.0%</td> <td>91.7%</td> <td>+3.3p</td> <td>92.8%</td> <td>92.8%</td> <td>0p</td> </tr> <tr> <td>小学6年</td> <td>92.7%</td> <td>93.4%</td> <td>-0.7p</td> <td>97.7%</td> <td>93.6%</td> <td>+4.1p</td> </tr> <tr> <td>中学1年</td> <td>93.6%</td> <td>91.7%</td> <td>+1.9p</td> <td>93.6%</td> <td>89.7%</td> <td>+3.9p</td> </tr> <tr> <td>中学2年</td> <td>90.6%</td> <td>90.8%</td> <td>-0.2p</td> <td>95.7%</td> <td>91.9%</td> <td>+3.8p</td> </tr> </tbody> </table> 2 いじめは小学校156件、中学校36件が報告された（R2 小114件、中46件）。いじめ認知後、各校で即時対応するなど適切な指導がなされ、解決につながっている。 3 令和3年度の本市の不登校の出現率は18.4人（1000人当たり）である。令和2年度は14.9人で、国の20.5人、県の17.0人を下回った。本市の不登校出現率は、令和2年度まで国と県の平均を下回っているが、年々増加傾向にある。（令和3年度の国と県の結果は集計中。）					学 年	R 3		比較	R 2		比較	能代市	県平均	能代市	県平均	小学4年	96.0%	92.2%	+3.8p	90.8%	93.6%	-2.8p	小学5年	95.0%	91.7%	+3.3p	92.8%	92.8%	0p	小学6年	92.7%	93.4%	-0.7p	97.7%	93.6%	+4.1p	中学1年	93.6%	91.7%	+1.9p	93.6%	89.7%	+3.9p	中学2年	90.6%	90.8%	-0.2p	95.7%	91.9%
学 年	R 3		比較	R 2			比較																																											
	能代市	県平均		能代市	県平均																																													
小学4年	96.0%	92.2%	+3.8p	90.8%	93.6%	-2.8p																																												
小学5年	95.0%	91.7%	+3.3p	92.8%	92.8%	0p																																												
小学6年	92.7%	93.4%	-0.7p	97.7%	93.6%	+4.1p																																												
中学1年	93.6%	91.7%	+1.9p	93.6%	89.7%	+3.9p																																												
中学2年	90.6%	90.8%	-0.2p	95.7%	91.9%	+3.8p																																												
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ）																																																	
	[具体的な課題及び取組] 1 「いじめ問題対策連絡協議会」を開催して本市のいじめ問題の現状を把握し学校・家庭・地域その他関係者が連携を図って対応する。また自己有用感を高め、すべての児童生徒の安全・安心な学校生活へ向けて、各校のいじめ防止基本方針の学校・家庭・地域での共有を推進し、「いじめは絶対に許さない。」という学校風土をつくる。 2 不登校・不登校傾向の児童生徒の回復に向けて、各校で校内体制を整え、関係機関とも積極的な連携が図られるようにする。また、新たな不登校児童生徒を出さないように、気になる児童生徒への即時対応、チームでの対応を推進する。 3 適応指導教室「はまなす広場」の機能を強化するため、指導員や児童生徒支援アドバイザー、風の子電話相談の相談員が横断的に運営に関われるようにする。																																																	
学 識 経 験 者 の 意 見	○不登校出現率は令和2年度までは国と県の平均を下回っていますが、増加傾向にあることが若干気になります。いじめ認知後は即時対応するなどの適切な対応が取られているようなので、今後とも「いじめは絶対に許さない。」という学校風土の育成に力を入れてくださるよう、お願いします。 ☐いじめ・不登校対策として、魅力ある学校づくりは必須条件です。教育委員会の指導のもと、各校の特色を生かした魅力ある学校づくりに努めてください。それが未然防止対策となるはずです。 ☐児童生徒の実態を把握する上でもQ-Uアンケートを継続して行い、有効に活用していただきたいと思います。 ☐児童生徒支援アドバイザーによる、「心と命を大切に」をテーマとした講話が効果的でした。今後、全小・中学校で実施してほしいと思います。																																																	

基 本 目 標	2 豊かな人間性を育む学校教育の推進												
施 策 項 目	② 心豊かでたくましい子どもを育てる指導												
方 針 ・ 目 標	生き方を探求し自立を促す指導、健やかな心と体の育成、命の教育や防災教育等を推進します。												
事業・取組名	健やかな心と体の育成												
目 標 値	1 新体力テストにおいて、体力合計点が全ての学年（男女別）で県平均を上回るようにします。 2 国の地域連携安全・安心推進事業を活用し、拠点校である第五小学校・能代東中学校の成果を市内各校に広める機会を設定します。												
事 務 事 業 の 実 績	1 新体力テストの実施と分析を行い、市教委訪問で各校の課題を確認し、助言した。 2 2月の能代市防災教育研修会において、地域連携安全・安心推進事業の拠点校の中核職員が、自校の取組と成果、課題等について市内全小・中学校に紹介した。												
点 検 ・ 評 価	評価	B		A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る									
	[説明]												
	1 新体力テストでは、ほぼ全ての学年、男女で県平均を上回っている。												
	【令和3年度新体力テストの体力合計点平均の比較】												
		小 1		小 2		小 3		小 4		小 5		小 6	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	秋田県	31.33	32.33	38.31	39.84	44.25	46.60	50.34	53.12	55.61	58.69	61.62	62.88
	能代市	33.46	34.29	40.93	44.18	45.68	48.69	51.17	53.70	55.33	59.63	62.15	65.99
	比較	2.13	1.96	2.62	4.34	1.43	2.09	0.83	0.58	-0.28	0.94	0.53	3.11
	前年度比												
前々年度比					2.25	1.90	1.99	2.89	1.53	3.00	0.50	2.54	
		中 1		中 2		中 3		※前年度は新体力テストがなかったため比較はなし。前々年度比は、当該学年の2年前の県平均との比較値。 例：中2男子の2.70は小6時の県平均との比較値。					
	男子	女子	男子	女子	男子	女子							
秋田県	35.27	45.80	44.59	51.68	51.15	53.57							
能代市	35.16	48.85	45.83	51.99	53.46	56.50							
比較	-0.11	3.05	1.24	0.31	2.31	2.93							
前年度比													
前々年度比	1.01	2.44	2.70	1.42	1.62	2.63							
【テスト項目】 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、シャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール（ハンドボール）投げ、持久走（中学生のみ）													
2 地域連携安全・安心推進事業では、拠点校においてショート避難訓練や避難所開設訓練、防災教室に取り組むなど、地域や関連機関と連携した防災教育の一層の充実を図ることができた。2月に能代市防災教育研修会を行い中核教員が市内小・中学校へ取組を紹介し、成果と課題を発信する機会とした。													
課 題 及 び 今後の取組の方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] ・各校において新体力テストの結果を分析し、体育の授業や外遊びの奨励、部活動等により、高めたい運動特性につながる運動を積極的に取り入れるよう指導する。												

学 識 経 験 者 の 意 見	○新体力テストでは、ほぼすべての学年・男女で県平均を上回っていますので、目標には至らなかったものの、十分な成果が表れていると感じます。新型コロナウイルス感染防止の措置を徹底しながらも、今後とも体育指導や部活動指導に一生懸命取り組んでほしいと願っています。 □コロナ禍においても、教育委員会の指導のもと、各学校で体育指導・健康指導を徹底したことにより、新体力テストでは、ほぼ全ての学年、男女で県平均を上回っていました。指導の賜ととらえます。
----------------------------	---

基 本 目 標	2 豊かな人間性を育む学校教育の推進
施 策 項 目	③ 基礎学力の向上を図る学習指導
方 針 ・ 目 標	児童生徒の基礎学力の確実な定着と向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現を目指します。
事業・取組名	1 基本的な学習習慣の確立 2 子どもが主体的に取り組める学習指導 3 評価を生かした授業改善 4 ねらいに即したＩＣＴの効果的な活用
目 標 値	1 「学校がある日の勉強時間」（１時間以上勉強している児童生徒の割合）で、県平均を上回るよう目指します。 2 学習意欲に関する肯定的評価が小学生で 80%以上、中学生で 60%以上、児童生徒同士の学び合いに関する評価が、小・中学校とも 90%以上を目指します。 3 学校訪問等で参観した主体的・対話的で深い学びの授業事例を教育情報紙で全ての小・中学校から 1 つ以上紹介します。
事務事業の実績	1 基本的な学習習慣の確立 県学習状況調査の学校分析と補充・改善の実施、学校訪問等での情報交換及び指導助言等を実施した。 2 子どもが主体的に取り組める学習指導 ①県学習状況調査の学校分析と補充・改善の実施、研究主任会での情報交換及び指導助言等を実施した。 ・個々の児童生徒の補充学習実施の促進を図った。 ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の促進を図った。 ・タブレット端末等のＩＣＴを活用した授業を推進した。 ②研修機会（初任者研修、講師等研修会、算数・数学学力向上研修会、研究主任会、タブレット研修会等）の提供と各校の情報共有を行った。 ・能代市山本郡の初任者、講師を対象に、初任者研修、講師等研修会を開催し、「秋田の探究型授業」のポイント等について指導助言した。 ・小・中学校の算数・数学担当者を対象に「算数・数学学力向上研修会」を開催し、算数・数学の学力向上やタブレット端末を活用した授業づくりについて、専門監の講義・演習後、情報交換をするとともに指導助言を行った。 3 評価を生かした授業改善 ・学校訪問（所長訪問随同行、市教委訪問、要請訪問）において、授業改善について指導助言した。 ・市教委訪問では、能代市の授業づくりの重点を確認するとともに、学校の研究体制や道徳科における課題設定・話し合い活動の在り方について、具体的に指導助言した。

1 基本的な学習習慣の確立

【学校がある日の勉強時間（1時間以上勉強している児童生徒の割合）】

・小4～中1で県平均を上回る結果であった。

学 年	R 3		比較	R 2		比較
	能代市	県平均		能代市	県平均	
小学4年	41.0%	38.6%	+2.4p	39.1%	37.7%	+1.4p
小学5年	62.2%	49.9%	+12.3p	43.2%	50.2%	-7.0p
小学6年	67.4%	60.3%	+7.1p	65.0%	58.7%	+6.3p
中学1年	75.8%	69.5%	+6.3p	77.4%	71.5%	+5.9p
中学2年	65.6%	67.5%	-1.9p	59.7%	67.0%	-7.3p

2 子どもが主体的に取り組める学習指導

①学習意欲は「勉強が好きだ」の割合

〈目標値：小学生80%以上、中学生60%以上〉

・目標値は中2以外の学年で上回った。すべての学年で県平均を上回った。

学 年	R 3 能代市	目標値と の比較	R 3 県平均	県との 比較
小学4年	92.8%	+12.8p	80.2%	+12.6p
小学5年	83.7%	+ 3.7p	74.3%	+ 9.4p
小学6年	81.7%	+ 1.7p	73.2%	+ 8.5p
中学1年	67.0%	+ 7.0p	57.4%	+ 9.6p
中学2年	59.2%	- 0.8p	51.7%	+ 7.5p

②「ふだんの授業では、学校の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」の割合 〈目標値：小・中学校とも90%以上〉

・すべての学年で目標値、県平均を上回った。

学 年	R 3 能代市	目標値と の比較	R 3 県平均	県との 比較
小学4年	96.4%	+6.4p	90.7%	+5.7p
小学5年	92.6%	+2.6p	90.7%	+1.9p
小学6年	95.9%	+5.9p	92.6%	+3.3p
中学1年	95.6%	+5.6p	93.2%	+2.4p
中学2年	95.4%	+5.4p	94.1%	+1.3p

3 評価を生かした授業改善

能代市教育委員会学校訪問から見た各校の授業改善の取組について、教育情報紙「ふいご」で取り上げた。主体的・対話的で深い学びにつながった授業や、能代市の授業づくりの重点を意識した授業に焦点を当て、教師の授業改善の一助となるような紙面作りを行った。

課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] 1 基本的な学習習慣の確立については、小・中連携による継続的、系統的な学び方指導、家庭への啓発等を引き続き各学校に指導する。 2 新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を目指し、各種研修会や広報等で広く周知する。
学 識 経 験 者 の 意 見	○学校がある日の勉強時間（１時間以上勉強している児童生徒の割合）については、令和２年度に比べておおむね上昇していますので、事業活動の成果は表れていると考えられます。またタブレット端末を活用した授業づくり等にも、積極的に取り組んでいることが伺えます。今後ともＩＣＴの効果的な活用について、理解と実践を積み重ねてください。 □能代市山本郡の初任者、講師を対象に開催した初任者研修会、講師等研修会を通して、若い教員の資質を高めることができました。特に、現在重視されている「主体的・対話的で深い学び」の授業研究を進めたことで、児童生徒の学習意欲・思考力・判断力・表現力を高めることができました。 □教育情報誌「ふいご」を通して質の高い授業を紹介することで、全教員の授業改善、授業構築につながっています。 □県の補助事業でＩＣＴ教育を推進してきた能代一中、能代二中、淳西小、浅内小の実践を、今後、全小・中学校に波及し、全体で研修を進めてほしいと思います。県の学習状況調査の質問「普段の授業でどれくらいＩＣＴ機器を使用しているか」に対し「ほぼ毎日使用している」と回答した能代市の割合が県平均を大きく上回ったことは指導の成果といえます。

基 本 目 標	2 豊かな人間性を育む学校教育の推進		
施 策 項 目	④ 幅広い識見と実践的指導力を培う教職員の研修		
方 針 ・ 目 標	学校や教職員の課題に応じた研修機会の提供と充実により、教職員の識見を広げ、実践的指導力を向上させます。		
事業・取組名	1 学力向上のための研修 2 安全・安心な学校づくりのための研修 3 学びをより豊かにするための研修		
目 標 値	各研修会参加者の肯定的評価で、4段階評価の3.6以上を目指します。		
事 務 事 業 の 実 績	各研修会を計画したが、新型コロナのため中止した研修会もあった。 ①職務別研修を実施した。 ・教務主任・研究主任協議会（4月） 「見方・考え方」についての講話・協議、情報交換 ・特別支援教育担任等研修会（6月） 山本出張所指導主事の講話「誰もが安心できる学級経営、誰もが分かる授業」、情報交換 *中止した研修会 ・豊島区教育フォーラムへの教員派遣（8月） ※淳城西小と池袋第三小によるオンラインでの交流を実施 ②教職経験者研修を実施した。 ・初任者研修（5・8月） 1回目：教育懇談（教育長講話、課長・指導主事による講義等） 2回目：郷土研修（能代市の産業、自然、文化、施設） ・講師等研修（7月） 集団協議（生徒指導や学習指導に係るテーマについて） ③テーマ別研修を実施した。 ・読書活動推進研修会（5月） ・幼保小連携推進協議会（5月、11月、3月） ※3月は書面開催 ・算数・数学学力向上研修会（7月） 教育専門監の講話「タブレットの活用について」、情報交換 ・外国語研修会（8月） ・学校防災教育研修会（2月） *中止した研修会 ・東京都豊島区との教育連携を生かした研修（6・11月） ・中学生モデルロケット講習会		
点 検 ・ 評 価	評価	A	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ・実施した研修会で4段階の事後アンケートを実施したところ、参加者から内容が実践的で分かりやすかったなどの評価を得ている。 初任者研修		

	研修内容を工夫することができた。 ・新学習指導要領や能代市の教育方針及び学校の課題等について、各校の日常の取組に生かすことができるよう、専門的な分野に秀でた事務所指導主事や教育専門監を講師として招聘した。 ・新型コロナの拡大防止に努めながらできるだけ対面式の研修会を開催するとともに、対面式での開催が困難な場合は、オンラインや書面での研修も取り入れながら研修の充実を図った。
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐拡充 ☒継続 ☐廃止検討 ☐その他（ ） 〔具体的な課題及び取組〕 ①ミドルリーダーを育成する研修の充実を図る。 ・豊島区との教育交流事業の充実によるミドルリーダーの実践的指導力の向上 ただし、令和4年度は、3年度に引き続き、教員研修は中止。オンライン等を活用した研修を推進していく。 ・教務主任・研究主任協議会の充実 令和4年度は、文科委託事業「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」実践校の実践を紹介した。 ②教科等の実践的指導力向上に関する研修の充実を図る。 ・要請訪問での研究会のコーディネートや指導助言による各校の研修会の充実 ・タブレット、電子黒板やデジタル教科書等、ICTを活用した効果的な授業づくりの推進 ・算数・数学学力向上研修会での小・中学校の学びの連続性及び秋田の探究型授業等への理解を深める講義、ICT活用に関する協議の実施 ③生徒指導の機能を指導に生かすための研修の充実を図る。 ・市教育委員会指導主事と児童生徒支援アドバイザーによる全ての小・中学校訪問の実施 ・心の教室相談員を対象とした研修会の実施 ④特別支援教育の充実を図る。 ・幼保小連携推進協議会や特別支援教育学級担任等研修会の開催等、学校のニーズに応じ、教育力を高めるための研修会の実施 ・特別教育支援指導員・支援員を対象とした情報共有の場の設定（学期1回） 今後も各学校において能代市が目指す教育の方向性への理解が深まり、教員一人一人の指導力が一層高まるよう、新型コロナ感染防止対策を十分に行いながら、各学校の実情と教育課題等に即した実践的な研修を企画、実施していく。また、研修した内容が各校に伝わるように、教育情報誌の一層の充実を図る。
学 識 経 験 者 の 意 見	○コロナ禍にもかかわらず、職務別研修・教職経験者研修・テーマ別研修といった各種の研修を積極的に実施している様子が伺えます。アンケート調査の結果も上々ですので、今後ともミドルリーダーを育成する研修の充実、ICTを活用した効果的な授業づくりの推進など、課題として挙げられている事項に取り組んでください。 ☐昨年中止となっていた「幼保小連携推進協議会」を年3回開催できたことは大きな成果といえます。幼保小の連携は、今後も重要な教育課題の1つですので、より一層研修の充実を図ってください。 ☐実施されたどの研修会も充実したもので、教員の資質向上につながっています。参加した教員の満足度が高いことも評価できます。 ☐今年度中止となった中学生モデルロケット講習会は、今後、宇宙のまち能代の

	事業としてぜひ進めていただきたい講習会です。 ☐ 豊島区との教育交流事業は今年度も中止となりましたが、コロナ禍が終息した際には、研修を再開してほしいと願っています。
--	---

基 本 目 標	2 豊かな人間性を育む学校教育の推進																						
施 策 項 目	⑤ 安全・安心な学校教育環境の整備																						
方 針 ・ 目 標	子どもたちの安全を守るための能力の育成や学校安全の徹底を推進します。																						
事業・取組名	学校安全の推進																						
目 標 値	1 学校生活における児童生徒の事故発生率が過去3年間平均を下回ることを目指します。 2 関係機関と連携し、通学路の安全点検を合同で実施し、専門家の視点から児童生徒の安全面を考慮した改善を進めます。																						
事 務 事 業 の 実 績	学校安全の推進 ①教育活動における安全指導 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>過去3年間の平均</td><td>3年度</td></tr> <tr> <td>登下校時の事故</td><td>11 件</td><td>12 件</td><td>6 件</td><td>9.7 件</td><td>8 件</td></tr> <tr> <td>校内における事故</td><td>6 件</td><td>7 件</td><td>24 件</td><td>12.3 件</td><td>23 件</td></tr> </table> ・学校訪問等で学校安全に関する指導助言を行った。 ・市生徒指導協議会で各校の生徒指導主事に事故発生状況を伝えるとともに、安全に関する指導助言を行った。 ②各学校の実態に応じた安全点検等の実施 ・関係機関と連携して通学路点検と協議を行い、通学路の改善を図った。 ③学校給食における食の安全の取組 ・食育デー（毎月19日）に地場産物を多く使用した献立を提供した。 ・アレルギーの児童生徒を把握し、代替給食を提供した。（43人） ・危険な異物等が給食に入り込まないように、衛生管理面の徹底に努めた。						30年度	元年度	2年度	過去3年間の平均	3年度	登下校時の事故	11 件	12 件	6 件	9.7 件	8 件	校内における事故	6 件	7 件	24 件	12.3 件	23 件
	30年度	元年度	2年度	過去3年間の平均	3年度																		
登下校時の事故	11 件	12 件	6 件	9.7 件	8 件																		
校内における事故	6 件	7 件	24 件	12.3 件	23 件																		
点 検 ・ 評 価	評価	C	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る																				
	[説明] 学校安全の推進 ①登下校時の事故は8件（過去3年間の平均9.7件）、校内における事故は23件（過去3年間の平均12.3件）で、学校生活における事故の合計は31件となり、過去3年間の平均22件を上回る結果であった。学校には、些細な事故であっても、発生した場合は速やかに第一報を入れてもらうようお願いしている。 ②関係機関と連携し、通学路の安全点検を合同で実施し、専門家の視点から児童生徒の安全面を考慮した改善を進めることができた。（令和3年度：各校からの点検・改善要望27箇所。対策済み22箇所、対策予定3箇所、対策検討2箇所） ③ 学校給食における危険な異物等の混入は0件。 食物アレルギーによるアナフィラキシーの発生件数は0件。																						
課 題 及 び 今後の取組の方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] 学校安全の推進 学校、地域、保護者、関係機関との連携を密にし、多くの目で児童生徒を見守る体制づくりを推進し、事故防止に努めていく。																						
学 識 経 験 者 の 意 見	○下校時の事故は減少しましたが、校内における事故は大幅に増加しています。原因を調査し、改善活動を実施されることを望みます。そして引き続き、学校																						

	安全の確保に全力を挙げて取り組んで頂きますよう、お願いします。 □安全安心な登下校を目的とした通学路合同点検を実施しています。その結果を十分分析し、関係機関との連携を図りながら早急に対応してください。保護者や地域の方からの情報もこまめに収集することが大切です。 □学校給食事故防止への対応は大変なことです、これからもアレルギー児童生徒への対応、異物混入への対応等について学校や関係機関との連携を図り、発生件数0件を目指して衛生管理に努めてください。
--	---

基 本 目 標	2 豊かな人間性を育む学校教育の推進		
施 策 項 目	⑤ 安全・安心な学校教育環境の整備		
方 針 ・ 目 標	経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者等に対する支援を一層充実させ、子どもたちが安全・安心に過ごせる良好な教育環境をつくります。		
事業・取組名	就学援助、奨学金貸付事業及び奨学金返還助成事業の周知徹底と利用促進		
目 標 値	就学援助、奨学金貸付事業及び奨学金返還助成事業の周知徹底を図るとともに、利用促進に努めます。		
事 務 事 業 の 実 績	1 就学援助（令和4年3月末現在） 要保護47人、準要保護720人、認定割合は26.6%（2年度25.7%） 県内でも高い水準となっている。 2 能代市奨学金貸付事業 採用者数：令和3年度（令和4年度貸与）20人（高校0人、大学等20人） （2年度18人） 令和3年度奨学生追加募集（新型コロナウイルス感染症対策事業） 応募者：6人（高校0人、大学等6人）（2年度0人） 3 ふるさと人材育成・定住促進奨学金貸付事業 採用者数：令和3年度29人（能代21人、三種5人、八峰1人、藤里2人） （2年度23人） 4 奨学金返還助成事業 助成者数：令和3年度25人（2年度7人）		
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] 1 就学援助 ・制度の周知が図られていることなどから、認定割合が上昇傾向にある。 2 能代市奨学金貸付事業 ・8月から募集を開始し、随時追加募集を行ったことから、AO入学等様々な時期に対応でき、採用者が定員を満たした。 ・新型コロナ対策として、令和3年度奨学生の追加募集を行い、6人の応募者があった。 3 ふるさと人材育成・定住促進奨学金貸付事業 ・随時追加募集を行い周知を図ったが、応募者、採用者が定員に満たなかった。 4 奨学金返還助成事業 ・関係機関等と連携し周知を図っていることから、助成対象者が増加している。		
課 題 及 び 今後の取組の方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] ・奨学金貸付事業については、申請要件の見直しを行うなど、引き続き利用促進に向けて取り組む。		
学 識 経 験 者 の 意 見	○活動目標はおおむね達成されているようですが、コロナ禍の下では、子どもの貧困問題は悪化することが予想されます。各種事業の見直し・拡充など、積極的な支援活動をお願いします。 □昨年度同様、新型コロナ対策として奨学生の追加募集を行ったことが定員を満たした結果につながったと考えます。ふるさと人材育成・定住促進奨学金貸付事業については、採用者が定員に満たない状況が続いているので更なる工夫が必要です。		

基 本 目 標	2 豊かな人間性を育む学校教育の推進		
施 策 項 目	⑤ 安全・安心な学校教育環境の整備		
方 針 ・ 目 標	学校施設・設備の計画的な整備に取り組みます。		
事業・取組名	1 学校施設の老朽化対策等の推進 2 学校施設の環境改善の推進		
目 標 値	1 老朽化対策については、能代市公共施設等総合管理計画及び教育施設等長寿命化計画に基づき順次実施します。また、安全・安心に重大な影響が見込まれるものについては、早期対応を図ります。 2 環境改善については、予定しているエアコン設置を順次実施します。		
事 務 事 業 の 実 績	1 学校施設の老朽化対策等の推進 ①長寿命化計画に基づく事業実施 淳城南小学校の大規模改修（屋上防水、外壁、教室・廊下の床改修等）Ⅱ期工事及びプール解体及び改修工事を行った。※改修工事は令和4年6月末完成予定。また、第五小学校及び東雲中学校の空調設備改修工事を行った。国交付金の追加配分に機を逃さず要望し、淳城西小学校及び二ツ井中学校大規模改修Ⅰ期工事の採択を得て3月定例会で予算措置した。※令和4年度工事 ②常時の調査・点検等 法定・任意点検、職員による随時巡回等により状況を把握し、優先度を考慮し対応した。 2 学校施設の環境改善の推進 ① エアコンの設置 中学校5校（能代一中、能代二中、能代東中、能代南中、二ツ井中）の冷房設置工事を行った（令和2年11月契約、令和3年5月完成）。また、浅内小学校の図書室空調設備改修工事を行った。		
点 検 ・ 評 価	評価	A	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] 1 学校施設の老朽化対策等の推進 ○淳城南小大規模改修Ⅱ期工事の実施 ○淳城南小プール解体及び改修等工事の実施。令和4年6月末完成予定。 ◎淳城西小及び二ツ井中大規模改修Ⅰ期工事の前倒し予算措置 ○第五小及び東雲中学校の空調設備改修工事の実施 ○各種法定点検、調査結果等により必要となった整備の実施 2 学校施設の環境改善の推進 ○中学校5校エアコン設置工事の実施		
課 題 及 び 今後の取組の方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] ・大規模改修等に充てる財源の確保 能代市教育施設等長寿命化計画に基づき整備計画を国へ示し、引き続き交付金の獲得と有利な起債の活用に努める。また、交付金の追加配分等の機会があれば、時期を逃さず積極的に要望していく。		

学 識 経 験 者 の 意 見	○予算が限られている中、老朽化対策は目標を上回るペースで進んでいることが伺えます。エアコン設置は学習環境の観点からも重要と考えますので、すべての小・中学校での設置に向けて、今後とも着実な活動をお願いします。 □学校の大規模改修が進み、学校施設環境が整ってきたことにより、児童生徒にとって安全安心な学校が築き上げられています。 □管理職による危機管理の徹底により、危険個所が整備され、児童生徒の大きな事故が無くなっています。 □校舎の雨漏りが、教育活動の停滞、児童生徒の安全確保等に支障を来していると聞くことがあります。早急な改善をお願いします。
--------------------	--

基 本 目 標	3 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進										
施 策 項 目	① 学習の成果を地域に生かす取り組みの推進										
方 針 ・ 目 標	市民の学習意欲を高められるよう学習環境の整備とともに、学びの成果を地域に生かすことができるよう生涯学習諸施策の充実を図ります。										
事業・取組名	生涯学習推進事業										
目 標 値	出前講座の利用件数で、前年度と同等を目指します。										
事 務 事 業 の 実 績	1 生涯学習推進体制 (1) 生涯学習推進本部（本部長－市長、本部員－部長等） (2) 生涯学習推進協議会（12 人） (3) 生涯学習奨励員（26 人） (4) 社会教育指導員（1 人） 2 情報提供 (1) 生涯学習関連事業の作成（生涯学習推進協議会委員等へ配布） (2) 広報のしろへの「生涯学習のしろ」掲載（年 2 回） (3) ホームページによる情報提供（随時） (4) 地元新聞による情報提供 3 学習環境の整備 <table border="0"> <tr> <td>出前講座</td><td>利用件数</td><td>R3 : 76 件</td><td>(R2 : 73 件)</td></tr> <tr> <td></td><td>受講者延べ</td><td>R3 : 2,035 人</td><td>(R2 : 2,800 人)</td></tr> </table> 4 人材の活用・育成 生涯学習奨励員の活動促進 ア 奨励員同士の交流及び資質向上のための学習機会を提供 ・能代市山本郡生涯学習奨励員地区連絡協議会研究大会 ※中止 ・能代市生涯学習奨励員協議会移動研修 イ マナブゥ市での交流（工作、手芸等） ※中止 ウ 生涯学習のつどい（工作、料理等）※奨励員自主企画事業、中止			出前講座	利用件数	R3 : 76 件	(R2 : 73 件)		受講者延べ	R3 : 2,035 人	(R2 : 2,800 人)
出前講座	利用件数	R3 : 76 件	(R2 : 73 件)								
	受講者延べ	R3 : 2,035 人	(R2 : 2,800 人)								
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る								
	[説明] 出前講座利用件数 R3 : 76 件 (R2 : 73 件、R1 : 122 件、H30 : 122 件) 前年との比較で、件数は微増しているものの、受講者数は減少しているため、評価はほぼ目標どおりの「B」とした。 ①市民意識調査「学んだ知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合」 →R3 : 11.0% (R2 : 14.8%、R1 : 15.1%、H30 : 12.7%) ②第 3 次能代市社会教育振興中期計画に基づく実施事業数 →R3 : 89 項目 (R2 : 87 項目) 公民館祭、地区文化祭、銀河フェスティバル等の大人数の参加が見込まれる項目が減となったものの、新型コロナの感染防止に取り組みながら、市民へ学										

	びの機会の提供を実施した。 ③生涯学習ボランティア登録者数 → R3：44人（R2：44人） ④生涯学習奨励員を講師とした体験活動や講座を実施しようとしたが、新型コロナの拡大に伴い、中止とした。
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] ①「いつでも、どこでも、だれでも」学べる環境づくり ・市民意識調査や講座終了後のアンケート結果を参考とし、市民の学習ニーズや地域課題を把握しながら、それに対応した学習機会の提供に努める。 ・広報、ホームページ、新聞等の活用により、講座情報の周知拡大を図り、学べる環境づくりに努める。 ②学びの成果を社会に還元する場や機会の創出 ・学んだ知識や特技を地区活動等で発揮することができるよう、研修会等で意識づけを図る。 ・発表、交流の場の提供に努め、学習を通じた生きがいを支援する。 ③子どもと大人がともに学び合い育ち合う地域づくり ・地域資源（人・自然・行事等）を生かした体験活動の充実を図る。 ・世代を超えて多様な価値観や考え方に共感できるよう世代間交流を促進する。 ・学校、家庭、地域を繋げるコーディネーターの育成を図り、人と地域を繋ぐ仕組みづくりをすすめる。
学 識 経 験 者 の 意 見	☐ コロナ禍という状況下にもかかわらず懸命に活動が続けられたことに、まずは敬意を表します。今後はコロナ禍でもできる新たな活動なども考えて頂きながら、事業推進に取り組んでいただければと思います。 ☐ 昨年度に続き、コロナ禍により、人材の活用・育成に関するいくつかの事業が中止となりましたが、今後、更に計画を見直し、実施に向けて準備を進めてください。

基 本 目 標	3 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進				
施 策 項 目	② 市民ニーズや地域課題に対応した多様な学習機会の提供と充実				
方 針 ・ 目 標	現代的課題やニーズに応じた講座等を開催するとともに、参加しやすい環境を整えます。				
事業・取組名	公民館活動事業 勤労青少年ホーム活動事業 働く婦人の家活動事業				
目 標 値	講座数及び参加者数について前年度以上を目指します。				
事 務 事 業 の 実 績	1 中央公民館・地区公民館等開設講座・事業数				
	年度	講座数	回数	参加者数	対人口比 (各年3.31現在)
	R3	36講座	138回	5,217人	10.5%
	R2	32講座	145回	2,182人	4.2%
	R1	40講座	211回	10,594人	20.4%
	H30	39講座	247回	11,208人	20.8%
	2 中央公民館・地区公民館等開催講座内訳（数値は延べ数）				
	分野	おもな事業内容	対象	回数	参加者数
	家庭教育 (幼児教育)	親子体験活動 食育体験学習ほか	年中・年長児・ 小学生と保護者	12	306
	少年教育	体験活動	地区小学生	20	344
	青年教育	ボランティア育成	中・高校生	6	115
		障がい者の生涯学習支援	支援学校生ほか	10	157
	成人教育	集合学習（市民学校）	一般成人	40	578
		集合学習（その他講座等）	一般成人	14	533
		働く婦人の家講座	一般成人	8	87
勤労青少年ホーム講座		一般成人	1	3	
高齢者教育	集合学習（寿大学）	高齢者	15	872	
文化活動	公民館祭・文化祭	市民等	5	2,204	
コミュニティ活動	地域づくり講演会	一般成人	1	18	
合 計			138	5,217	
3 講座周知方法					
○中央公民館ほか（指定管理） …… 広報・新聞・フリー情報誌・ホームページ・フェイスブック・Twitter					
○二ツ井公民館（指定管理） …… 広報・新聞・フリー情報誌・ホームページ					
○地区公民館 ……（地域住民）チラシ （地域以外）広報					

点 検 ・ 評 価	評価	A	A 目標を上回る C 目標をやや下回る	B ほぼ目標どおり D 目標を大幅に下回る
	[説明] ①公民館の講座等については、令和2年度の145回・2,182人に対し、令和3年度は138回・5,217人で、回数はやや減少したものの参加者は大幅に増加している。 日常的にコロナ禍となっているなか、感染対策をとりながら講座を企画・開催しており工夫がみられる。 ②中央公民館では、平成30年度から国委託「障害者の生涯学習支援モデル事業」を受託し、学校卒業後の障がい者が社会で自立して生きるために必要となる力を伸ばす目的で各種講座を開催した。 ③二ツ井公民館では、地元出身者を講師に招き、小学生を対象にドリーム教室を開催し、小学生に夢を与える事業を展開している。			
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 ()			
	[具体的な課題及び取組] 1 市民のニーズにあった講座等の開設 ① アンケート等による市民ニーズの把握に努める。 ・中央公民館では「障害者の生涯学習支援モデル事業」を継続し、より効果的な学習プログラムを模索していく。「ボランティア育成講座」では、対象を中学生までとし、広く参加者を募る。 ・参加者アンケートでは、満足度を数値化できるような設問を設定し、更なるニーズの把握に努める。 ② 講座へ参加しやすい時間帯の設定や、他行事と重ならないような日程調整を引き続き行っていく。 2 多様な手法による情報提供 指定管理施設では広報やホームページ、SNSを活用した情報提供のほか、フリー情報誌などにも広告を掲載し幅広い情報提供を試みているが、基幹サイトであるホームページの更新頻度が低いなど課題がある。 3 指定管理者等との連携 ① 引き続き指定管理者との月例打ち合わせを行い、情報交換を密にする。 ② 中央公民館・地区館の事業担当者間の情報交換の場として公民館長会議を年3回実施する。			
学 識 経 験 者 の 意 見	○日常的なコロナ禍のなか、様々な工夫を重ねて事業を推進している様子が伺えます。今後も積極的に工夫を加えて頂き、事業を力強く推進して頂くよう、お願いします。 □市民のニーズに応じた多様な学びの機会を提供している点が評価できます。今後もアンケート等で市民のニーズを把握し、それに応じた講座を開設してください。 □参加希望人数が多い講座も見られますので、多くの方々が参加できるような学びの場づくりに努めてください。			

基 本 目 標	3 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進																																																				
施 策 項 目	③ 学習を通した生きがいきり、仲間づくりの支援																																																				
方 針 ・ 目 標	自主的な学習活動を支援し、学習成果の発表の場及び交流の場の確保、提供に努めます。																																																				
事業・取組名	公民館活動事業 勤労青少年ホーム活動事業 働く婦人の家活動事業																																																				
目 標 値	1 自主学习グループ等登録団体数について、前年度以上を目指します。 2 寿大学の参加者数について、前年度以上を目指します。																																																				
事 務 事 業 の 実 績	1 グループ等登録状況 ① 自主学习グループ等登録団体数 ※自主学习グループ+働く婦人の家利用グループ <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th colspan="2">自主学习グループ等合計</th><th rowspan="2">対人口比 (各年3.31現在)</th></tr><tr><th>団体数</th><th>人数</th></tr><tr><td>R 3</td><td>267団体</td><td>3,344人</td><td>6.9%</td></tr><tr><td>R 2</td><td>270団体</td><td>3,518人</td><td>6.9%</td></tr><tr><td>R 1</td><td>288団体</td><td>3,800人</td><td>7.3%</td></tr><tr><td>H30</td><td>279団体</td><td>3,733人</td><td>6.9%</td></tr></table> ② 勤労青少年ホーム利用者連絡協議会登録者数 <table><tr><th>年度</th><th>利用グループ数</th><th>登録人数</th></tr><tr><td>R 3</td><td>4団体</td><td>14人</td></tr><tr><td>R 2</td><td>11団体</td><td>42人</td></tr><tr><td>R 1</td><td>11団体</td><td>45人</td></tr><tr><td>H30</td><td>11団体</td><td>52人</td></tr></table> ③ 寿大学参加者数 <table><tr><th>年度</th><th>回数</th><th>参加者数</th></tr><tr><td>R 3</td><td>15回</td><td>872人</td></tr><tr><td>R 2</td><td>21回</td><td>575人</td></tr><tr><td>R 1</td><td>53回</td><td>2,384人</td></tr><tr><td>H30</td><td>51回</td><td>2,652人</td></tr></table> 2 グループ増加への取組 ① 学習成果発表の場 ○能代市公民館祭 ・作品展示 10/8～10/11 ・芸能発表会 10/10 ・公開講座 中止 ○二ツ井地区文化祭 ・作品展示 10/22～10/24 ・舞台発表 中止 ○地区公民館祭 中止 ○働く婦人の家まつり ・作品展示10/8～10/11 ○中央寿大学クラブ発表会 中止 ② グループ結成支援 ・中央公民館／市民学校 新規1グループ（絵手紙）	年度	自主学习グループ等合計		対人口比 (各年3.31現在)	団体数	人数	R 3	267団体	3,344人	6.9%	R 2	270団体	3,518人	6.9%	R 1	288団体	3,800人	7.3%	H30	279団体	3,733人	6.9%	年度	利用グループ数	登録人数	R 3	4団体	14人	R 2	11団体	42人	R 1	11団体	45人	H30	11団体	52人	年度	回数	参加者数	R 3	15回	872人	R 2	21回	575人	R 1	53回	2,384人	H30	51回	2,652人
年度	自主学习グループ等合計		対人口比 (各年3.31現在)																																																		
	団体数	人数																																																			
R 3	267団体	3,344人	6.9%																																																		
R 2	270団体	3,518人	6.9%																																																		
R 1	288団体	3,800人	7.3%																																																		
H30	279団体	3,733人	6.9%																																																		
年度	利用グループ数	登録人数																																																			
R 3	4団体	14人																																																			
R 2	11団体	42人																																																			
R 1	11団体	45人																																																			
H30	11団体	52人																																																			
年度	回数	参加者数																																																			
R 3	15回	872人																																																			
R 2	21回	575人																																																			
R 1	53回	2,384人																																																			
H30	51回	2,652人																																																			

点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る C 目標をやや下回る	B ほぼ目標どおり D 目標を大幅に下回る
	[説明] ① 自主学习グループ等の登録団体については、令和2年度に引き続き、コロナ禍の影響により若干減少したものの、登録人数の対人口比においては横ばいとなった。 ② 中央公民館の市民学校が、新たな自主学习グループの結成につながった。また、既存の絵手紙グループと共同で発表も行っており、活動の幅が広がっている。 ③ 新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、3年度についても各地区公民館祭は中止としたため学習成果発表の場が失われてしまった。 ④ 寿大学については、令和2年度の21回・575人に対し、令和3年度は15回・872人で、回数は減少したものの参加者数は増加している。 ※自主学习グループ等登録団体数は前年度比で若干減少したものの、登録人数の対人口比においては横ばいとなったほか、寿大学の参加者数は増加していることから、ほぼ目標どおりとした。			
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 ()			
	[具体的な課題及び取組] ・単発講座ではなく、市民学校等の複数回の学習や、テーマに沿った課題学習がグループ結成につながりやすいため、今後とも指定管理者と連携しながら、学びの継続を奨励していく。 ・各種講座終了後の発表の場として公民館祭等をとらえ、学習者の意欲を高揚し、学びの継続を促していく。コロナの影響で、各地区公民館では公民館祭が2年連続で中止となっているが、今年度以降については、感染対策等を実施し、新しい生活様式のなかで、各グループが活動の成果を発表する場を持てるよう、支援していく。 ・自主学习グループ等会員の高齢化に伴う団体数減や活動人数の減少が課題の1つである。また、人口減少の影響も今後強まることから、前年度との比較とあわせて、人口比についても注視していく。 ・今後、高齢化と人口減による団体数と活動人数の減少傾向が強まることが予想されるため、現状を維持していくことを第一目標としたい。そのうえで、新たな登録グループや活動参加者の増加につながるよう、各公民館・指定管理者と連携していく。			
学 識 経 験 者 の 意 見	○新型コロナウイルスの影響により中止となった取り組みもあったようですが、おおむね目標は達したと判断できます。寿大学の参加者数が増加したことに注目しています。 □昨年同様、コロナ禍により学習成果発表の場が中止となりましたが、適切な取組が計画されていますので、指定管理者との連携を図りながら事業の実施に努めてください。			

基 本 目 標	3 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進																						
施 策 項 目	④ 社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実																						
方 針 ・ 目 標	学習者が情報を共有でき、利用しやすい環境を整えます。																						
事業・取組名	公民館管理運営事業 施設管理事業（勤労青少年ホーム・働く婦人の家） 文化会館管理運営事業																						
目 標 値	施設・設備の状況及び利用者の要望を把握し、計画的に修繕や改修を実施していきます。																						
事 務 事 業 の 実 績	1 施設管理計画の策定 ・能代市教育施設長寿命化計画 令和2年3月 策定 2 指定管理者との情報交換 定例打合せ 能代市芸術文化協会 月1回 スポカルきみまち 月1回 3 自主学習グループアンケート等の改善要望（主なもの） <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央公民館</td><td>エレベーター設置、机、椅子・スクリーンの更新</td></tr> <tr> <td>東部公民館</td><td>洋式トイレ、コピー機、机・椅子の更新、卓球台</td></tr> <tr> <td>南部公民館</td><td>洋式トイレ、冷房、カーテン・網戸の取替</td></tr> <tr> <td>向能代公民館</td><td>洋式トイレ、冷暖房、照明の設置（駐車場）</td></tr> <tr> <td>常盤公民館</td><td>特になし</td></tr> <tr> <td>二ツ井公民館</td><td>音響照明設備、カーテンや網戸の取替</td></tr> <tr> <td>二ツ井分館</td><td>コピー機、冷房、洋式トイレ、エレベーター設置</td></tr> <tr> <td>勤労青少年ホーム</td><td>洋式トイレ、冷房、机・椅子の軽量化</td></tr> <tr> <td>働く婦人の家</td><td>洋式トイレ化、スロープの設置、机・椅子の更新</td></tr> <tr> <td>文化会館</td><td>エレベーター設置、ピアノ</td></tr> </tbody> </table> ※檜山公民館、鶴形公民館は地域拠点施設であり市民活力推進課が所管 4 施設・設備改修（主なもの） ア 中央公民館 ・ 屋上出入口鋼製ドア取替修繕 401千円 イ 文化会館 ・ 地下ピット配管及び楽屋ファンコイル等改修工事 43,073千円 ・ 大ホール舞台吊物機構幕地開閉機構取替工事 1,672千円 ・ 屋上はしご修繕 253千円 ウ 勤労青少年ホーム ・ 地下タンク改修工事 3,896千円 エ 地区公民館 ・ 外壁屋根改修工事（二ツ井公民館） 17,490千円 ・ F F 式温風暖房機設置工事（二ツ井公民館） 1,732千円 ・ 浄化槽修繕（二ツ井公民館） 480千円 ・ 非常灯交換修繕（常盤公民館） 489千円 ・ 大会議室他天井修繕（向能代公民館） 303千円	施設名	内容	中央公民館	エレベーター設置、机、椅子・スクリーンの更新	東部公民館	洋式トイレ、コピー機、机・椅子の更新、卓球台	南部公民館	洋式トイレ、冷房、カーテン・網戸の取替	向能代公民館	洋式トイレ、冷暖房、照明の設置（駐車場）	常盤公民館	特になし	二ツ井公民館	音響照明設備、カーテンや網戸の取替	二ツ井分館	コピー機、冷房、洋式トイレ、エレベーター設置	勤労青少年ホーム	洋式トイレ、冷房、机・椅子の軽量化	働く婦人の家	洋式トイレ化、スロープの設置、机・椅子の更新	文化会館	エレベーター設置、ピアノ
施設名	内容																						
中央公民館	エレベーター設置、机、椅子・スクリーンの更新																						
東部公民館	洋式トイレ、コピー機、机・椅子の更新、卓球台																						
南部公民館	洋式トイレ、冷房、カーテン・網戸の取替																						
向能代公民館	洋式トイレ、冷暖房、照明の設置（駐車場）																						
常盤公民館	特になし																						
二ツ井公民館	音響照明設備、カーテンや網戸の取替																						
二ツ井分館	コピー機、冷房、洋式トイレ、エレベーター設置																						
勤労青少年ホーム	洋式トイレ、冷房、机・椅子の軽量化																						
働く婦人の家	洋式トイレ化、スロープの設置、机・椅子の更新																						
文化会館	エレベーター設置、ピアノ																						

点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ①指定管理者との月例打ち合わせで、生涯学習の推進と利用者の利便性向上に向けた協議を行った。 ②施設や設備の老朽化に伴い改修箇所が増加傾向であるが、優先順位をつけて計画的に対応した。		
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 ()		
	[具体的な課題及び取組] ①指定管理者等との連携 ・引き続き指定管理者との月例打ち合わせを行うほか、メール等も活用して随時情報交換を行う。 ・中央公民館、地区公民館の情報交換の場として引き続き公民館長会議を実施する。 ②施設・設備の修繕 ・引き続き指定管理者と連携しながら施設・設備の状態を把握し、計画を立てて修繕や改修を実施するよう努める。 ・各地区公民館の施設・設備の状態を把握し、利用状況や利用者から寄せられたアンケート結果等を見ながら、計画的な修繕や改修を実施していく。		
学 識 経 験 者 の 意 見	☐ 増加する施設や設備の老朽化に優先順位を付けて計画的に実行するなど、順調に事業を推進していると判断できます。アンケートの結果を生かしながら、今後も活動を継続してください。 ☐ 能代市教育施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設・設備の改修が行われています。引き続き指定管理者との連携を図り、適切な計画のもと、修繕・改修に努めてください。		

基 本 目 標	3 より心豊かで生き生きとした暮らしにつながる学びの場づくりの推進																		
施 策 項 目	④ 社会教育施設等の適切な運営による、より良い学習環境の充実																		
方 針 ・ 目 標	市民の学習要求に応えるため、必要な資料を広く収集・整理・提供するとともに、生涯学習や生活に役立ち、利用しやすい情報の拠点となるよう努めます。 また、読書活動を推進するため、学校や家庭との連携を強化するとともに、各種事業を展開し、利用者拡大に努めます。																		
事業・取組名	図書館管理運営事業																		
目 標 値	図書館利用者満足度調査の全体的な満足度で、平均4点以上を目指します。																		
事 務 事 業 の 実 績	1 図書館資料の充実 ※統計は全て能代図書館と二ツ井図書館の合計蔵書冊数																		
	<table><tr><td>年度/項目</td><td>一般書</td><td>郷土</td><td>児童書</td><td>合計冊数</td></tr><tr><td>R 3</td><td>136,329 冊</td><td>19,092 冊</td><td>43,075 冊</td><td>198,496 冊</td></tr><tr><td>R 2</td><td>135,028 冊</td><td>18,774 冊</td><td>42,254 冊</td><td>196,056 冊</td></tr></table>	年度/項目	一般書	郷土	児童書	合計冊数	R 3	136,329 冊	19,092 冊	43,075 冊	198,496 冊	R 2	135,028 冊	18,774 冊	42,254 冊	196,056 冊			
	年度/項目	一般書	郷土	児童書	合計冊数														
	R 3	136,329 冊	19,092 冊	43,075 冊	198,496 冊														
	R 2	135,028 冊	18,774 冊	42,254 冊	196,056 冊														
	2 サービス活動の充実と利用の拡大																		
	(1) 来館者数、貸出冊数																		
	<table><tr><td rowspan="3">年度/項目</td><td rowspan="3">来館者数</td><td colspan="3">貸出冊数</td></tr><tr><td>個人貸出</td><td>団体貸出</td><td>合計冊数</td></tr><tr><td>R 3</td><td>100,007 人</td><td>148,444 冊</td><td>12,130 冊</td><td>160,574 冊</td></tr><tr><td>R 2</td><td>98,370 人</td><td>152,868 冊</td><td>10,917 冊</td><td>163,785 冊</td></tr></table>	年度/項目	来館者数	貸出冊数			個人貸出	団体貸出	合計冊数	R 3	100,007 人	148,444 冊	12,130 冊	160,574 冊	R 2	98,370 人	152,868 冊	10,917 冊	163,785 冊
	年度/項目			来館者数	貸出冊数														
					個人貸出	団体貸出	合計冊数												
R 3		100,007 人	148,444 冊		12,130 冊	160,574 冊													
R 2	98,370 人	152,868 冊	10,917 冊	163,785 冊															
(2) その他サービス																			
ア レファレンス・サービス（参考調査）、読書案内																			
イ リクエスト（予約）サービス																			
ウ 障がい者サービス（家庭配本）																			
エ 県立図書館等公共図書館との相互協力																			
オ ホームページの整備と管理																			
(3) 市や社会教育施設等との連携																			
ア 「子育て・家庭教育に関する本」のセット貸出																			
イ 男女共同参画関連図書の展示、貸出																			
ウ 育児関係本や絵本の配本																			
エ 読み聞かせおすすめ絵本の紹介の配布																			
オ 木に関する加工品の展示																			
カ 図書館間での資料搬送																			
(4) 学習機会の提供※ ¹																			
<table><tr><td>年度/項目</td><td colspan="2">講座等の開催</td><td colspan="2">選書体験等の開催</td></tr><tr><td>R 3</td><td>1 回</td><td>10 人</td><td>6 回</td><td>86 人</td></tr><tr><td>R 2</td><td>8 回</td><td>157 人</td><td>5 回</td><td>100 人</td></tr></table>	年度/項目	講座等の開催		選書体験等の開催		R 3	1 回	10 人	6 回	86 人	R 2	8 回	157 人	5 回	100 人				
年度/項目	講座等の開催		選書体験等の開催																
R 3	1 回	10 人	6 回	86 人															
R 2	8 回	157 人	5 回	100 人															
(5) 図書館利用者満足度調査結果（全体的な満足度平均）																			
5段階評価…「満足」5点、「やや満足」4点、「普通」3点、「やや不満」2点、「不満」1点																			
<table><tr><td>年度</td><td>能代図書館</td><td>二ツ井図書館</td></tr><tr><td>R 3</td><td>4.27</td><td>4.51</td></tr><tr><td>R 2</td><td>4.31</td><td>4.28</td></tr></table>	年度	能代図書館	二ツ井図書館	R 3	4.27	4.51	R 2	4.31	4.28										
年度	能代図書館	二ツ井図書館																	
R 3	4.27	4.51																	
R 2	4.31	4.28																	

	3 子どもの読書活動の推進 (1) 読み聞かせ活動の充実及び学校との連携・支援※² ア おはなし会 <table border="1" data-bbox="488 277 1005 407"> <tr> <th>年度</th><th>回数</th><th>人数</th></tr> <tr> <td>R 3</td><td>19 回</td><td>199 人</td></tr> <tr> <td>R 2</td><td>22 回</td><td>203 人</td></tr> </table> イ 一日図書館員（小学校 6 年生） 5 人 ウ 図書館を使った調べる学習コンクールの開催 応募 35 作品 エ 学校への図書配本を実施 随時 オ としょかんスタンプラリーの開催 7/1～7/30 (2) ボランティアとの連携 ※¹ 2 (4) 学習機会の提供、※² 3 (1) 読み聞かせ活動の充実及び学校との連携・支援に記載	年度	回数	人数	R 3	19 回	199 人	R 2	22 回	203 人
年度	回数	人数								
R 3	19 回	199 人								
R 2	22 回	203 人								
点 検 ・ 評 価	<table border="1" data-bbox="399 656 1426 734"> <tr> <td data-bbox="399 656 555 734">評価</td><td data-bbox="555 656 711 734">A</td><td data-bbox="711 656 986 734">A 目標を上回る</td><td data-bbox="986 656 1426 734">B ほぼ目標どおり</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td data-bbox="711 734 986 790">C 目標をやや下回る</td><td data-bbox="986 734 1426 790">D 目標を大幅に下回る</td></tr> </table> [説明] ①図書館利用者満足度調査では、平均 4 点以上と高い満足度になっている。 ②新型コロナの影響による臨時休館が多かった令和 2 年度よりは来館者数が増加したが、全体的な利用状況は依然低迷している。中止や規模の縮小を余儀なくされた事業も多かったが、開催した際には感染防止対策に務めて実施した。 ③ボランティアや学校等、様々な団体と連携した取り組みを行った。図書館を使った調べる学習コンクールでは、市内小中学校から 35 点の応募があった。 ④能代図書館と二ツ井図書館とで密に連絡を取り合い、特別貸出や、返却本・予約資料の搬送等を行うことにより利用者の利便性を向上させた。	評価	A	A 目標を上回る	B ほぼ目標どおり			C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下回る	
評価	A	A 目標を上回る	B ほぼ目標どおり							
		C 目標をやや下回る	D 目標を大幅に下回る							
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] ①図書資料の充実 市民の学習要求に応えられるよう図書資料の充実を図る。 ②利用者の声 毎年実施している図書館利用者満足度調査や、ご意見記載用紙の常備等で、利用者の声を把握し、運営に活かしていく。 ③関係機関との連携 学校や他の公共図書館、図書館ボランティア等との連携を図り、多様な学びの機会の提供やサービスの充実に努める。 ④指定管理者との連携 H27 年度から能代図書館に指定管理者制度を導入し、株式会社図書館流通センターが受託している。H31 年 2 月には直営で二ツ井図書館がオープンしており、引き続き能代図書館と二ツ井図書館の 2 館の連携を深め、施設の円滑な維持管理、運営を図りながら事業を推進していく。									
学 識 経 験 者 の 意 見	☐ コロナ禍にもかかわらず、おはなし会などを積極的に実施している様子が伺えます。図書館を使った調べる学習コンクールなどのユニークな取り組みもおこなわれていますので、今後とも様々な事業の積極的な継続をお願いします。 ☐ コロナ禍の影響により事業が縮小されたようですが、事業内容が充実していることにより、図書館利用者の満足度を高めていることは評価できます。今後も、学校や他の課、関係機関との連携を密にして事業を推進してほしいと思います。									

基 本 目 標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興		
施 策 項 目	① 伝統芸能の継承		
方 針 ・ 目 標	学校や地域と連携した伝統芸能の継承活動を推進します。		
事業・取組名	民俗芸能振興事業		
目 標 値	能代市民俗芸能連合会の構成団体数を維持します。（１８団体）		
事 務 事 業 の 実 績	1 能代市民俗芸能連合会構成団体数（単位保存会数） 元年度 １８団体（能代地区７ 二ツ井地区１１） ２年度 １８団体（能代地区７ 二ツ井地区１１） ３年度 １８団体（能代地区７ 二ツ井地区１１） 2 合同発表会 ※新型コロナ禍の影響により能代地区・二ツ井地区ともに中止 3 用具整備補助 ① 補 助：仁鮎郷土芸術保存会 内 容：獅子頭羽根補修（３頭分） 130,845 円 補助額：県補助 65 千円 ② 補 助：浅内ナゴメハギ保存会 内 容：装束等（腕まき・脚絆）の新調（１３組） 56,404 円 補助額：県補助 28 千円 4 後継者育成事業 各保存会で実施 5 各学校での取組 二ツ井小学校：仁鮎ささら踊（正課クラブ） 向能代小学校：鳥形獅子踊（総合的な学習の時間） 能代東中学校：檜山舞・鮎渕番楽・鶴形ささら（合同発表会） 6 子ども民俗芸能発表会 ※新型コロナ禍の影響により中止 7 その他 ・能代市民俗芸能アーカイブ構築 （令和２年度第３次補正地域文化財総合活用事業／主催：能代市民俗芸能連合会） ……伝承用動画の YouTube 発信 https://www.city.noshiro.lg.jp/res/minzoku-geinou/20351 ・あきたの文化魅力再発見事業 （令和３年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業／主催：秋田県 受託：わらび座劇場） ……修学旅行生対象の伝統芸能体験プログラム構築 切石作々楽踊（切石郷土芸術振興会）採択		
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ・連合会構成団体数は１８団体を維持している。 ・昨年度に引き続き新型コロナ禍の影響が大きい、地域では演目や開催日数を減らすなど工夫を凝らして祭礼を行った。 ・新型コロナ禍の影響により、合同発表会や子ども民俗芸能発表会を開催することができなかった。 ・アフターコロナを見据え、能代市民俗芸能連合会と教育委員会が連携し、リモート指導が可能なようにデジタルアーカイブを構築した。		

課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] ・会員数の減少と会員の高齢化は各保存会共通の課題であるが、即効的な対応は困難である。今後も連合会との連携を深めていくとともに、用具整備等、単位保存会への支援を継続していく。
学 識 経 験 者 の 意 見	○子ども民俗芸能発表会などが新型コロナウイルス感染症のために中止になりましたが、おおむね順調に活動が続けている様子が伺えます。デジタルアーカイブなど、コロナ後を見据えた活動をおこなっていることは、注目に値すると思います。今後も積極的に活動を続け、民俗芸能の保全に力を注いでくださいますよう、お願いします。 ☐仁鮎郷土芸術保存会、浅内ナゴメハギ保存会への用具整備補助は、保存会を維持するための効果的な手立てとなっています。 ☐伝統芸能を継承するために、各学校での取組を工夫するべきだと考えます。各保存会との連携を図り、特別活動や総合的な学習の時間等で伝統芸能を取り入れた学習を構築するべきです。 ☐能代市民俗芸能アーカイブを構築したことは、積極的な取組として評価が高いといえます。

基 本 目 標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施 策 項 目	② 文化財保護事業の推進
方 針 ・ 目 標	歴史資料の保存、活用に努めるとともに、国指定史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画に基づいた取り組みを推進します。
事 業 ・ 取 組 名	文化財保護事業
目 標 値	1 文化財がき損、散逸しないよう保護に努め、現在の指定・登録文化財数を維持します。 2 市民の文化財保護意識の高揚を図るため、関係団体と連携して歴史探訪会を開催し、参加者満足度 80%以上を目指します。
事 務 事 業 の 実 績	1 指定・登録文化財数 元年度 101件（2件指定） 2年度 101件 3年度 101件 ※ 亡失 2件（令和3年1月） 書跡「荷田春満筆 和歌短冊「野外残雪」（1軸） 書跡「本居太平筆 長短歌賛 柿本人麿座像」（1軸） → 能代市文化財保護審議会諮問の結果、亡失案件は一定期間経過観察をし、指定解除を行わないこととした 2 指定文化財の修復等 ・ 県指定 檜山追分旧羽州街道松並木 虫害被害木伐採運搬 - 檜山追分旧羽州街道松並木 大雪被害木伐採運搬 ・ 市指定 中母体 薬師神社 向拝・拝殿・本殿鞘堂 改修 3 案内板等の修繕・設置 ・ 案内板「古四王神社の杉」（檜山） ・ 標柱「檜山安東氏城館跡 大館跡」（檜山） 4 展示資料の修繕 ・ 道の駅「ふたつ」設置小掛鍾馗様 5 関係団体の活動 ①秋田県文化財保護協会能代支部 ・ 市内研修会 「井坂記念館・中田家」 - 日 時：10月9日（土）午後1時～ - 場 所：井坂記念館ほか ・ 能代鎮守 八幡神社歴史資料展 - 日 時：12月10日（金）～12日（日） - 会 場：能代市文化会館中ホール ②二ツ井町文化財保護協会 ・ 春期研修会 「加護山精錬所跡・俣后阪自然観察」 - 日 時：4月27日（火）午前8時30分～午後1時30分 - 場 所：きみまち阪県立自然公園 ・ 視察研修会 兼 歴史探訪会（※共催） 「二ツ井町の歌碑・句碑めぐり」 - 日 時：10月19日（火）午前8時30分～午後1時 - 訪問地：富根山本家山林地内、清徳寺境内、きみまち阪ほか

	参加者：11名 【満足度 平均 4.90 98%】 6 個人所蔵資料の所在調査 ・秋田県文化財保護協会能代支部、 二ツ井町文化財保護協会へ情報提供協力依頼 7 市所蔵資料の整理保管 ・古写真パネルの整理 ・市所蔵絵画の目録作成 ・東山家寄贈春慶塗の目録整備・保管処置 8 保管施設の整備 ・県内施設の視察 大館郷土博物館、大仙市アーカイブズ、美郷町歴史民俗資料館 秋田県立博物館		
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	・歴史探訪会は二ツ井町文化財保護協会と共催で実施したが、満足度は98%と目標を上回っている。ただし、実施機会が限定的なため、関係団体に広く呼びかけ機会拡充に努めたい。 ・新型コロナ禍の状況下で個人所蔵文化財等所在調査は見送り、市所蔵資料の整理を優先しておこなった。 ・県外出身者から資料寄贈に関する問合せが徐々に増えてきている。		
課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 () [具体的な課題及び取組] ・個人所有の文化財に関しては、これまで原則として所有者が管理し、市はそれを支援してきたが、所有者の高齢化・死亡・代替わりに伴い、市外への流出、散逸が懸念されている。2年度の指定文化財の紛失も、所有者の高齢化と代替わりに加え、市としての受入態勢、すなわち適切に保管できる施設がないことが遠因になっている。文化財等を市民共有の財産として次世代へ継承するため、保管施設を早急に整備する必要がある。 ・定期的な所在調査（追跡調査）及び情報収集に努めるとともに、市外所有者には市への寄託を依頼する。 ・歴史探訪会についても引き続き参加者の満足できるテーマを設定し、市民の文化財保護意識の高揚を図っていく。		
学 識 経 験 者 の 意 見	○課題でも指摘されていますが、個人所有の文化財は所有者の高齢化・死亡・代替わりに伴い、市外への流出や散逸が懸念されます。保管施設を早急に整備し、文化財を守る体制を整えて頂きたいと思います。 □二ツ井町文化財保護協会と共催で実施した視察研修会 兼 歴史探訪会は、満足度が98%と昨年度を上回り目標値も達成しています。今後も、参加者の増加を目指した事業を推進してください。		

基 本 目 標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興
施 策 項 目	② 文化財保護事業の推進
方 針 ・ 目 標	歴史資料の保存、活用に努めるとともに、国指定史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画に基づいた取り組みを推進します。
事業・取組名	檜山安東氏城館跡保存管理事業
目 標 値	計画に基づき檜山城跡の整備・発掘調査を実施するとともに除草等の適切な施設管理を行うことにより、年間 1,500 人以上の歴史ガイド利用者数を目指します。
事 務 事 業 の 実 績	1 檜山城跡の発掘調査 調査整備委員会：①現地指導 9月 1日（木） ②委員会 10月26日（火） ※踏査は新型コロナの影響により中止 調査箇所：本丸・倒木地点12カ所 調査期間：5月13日～10月22日 調査面積：約118㎡ 檜山城跡発掘調査見学会：8月22日（日） 参加者 20名 報告書：国史跡檜山安東氏城館跡 檜山城跡VI —令和3年度6次発掘調査報告書— 2 史跡の除草 延べ 31ha 檜山城跡：遺構箇所 12ha×2回、遊歩道2回 大館跡：遺構箇所 7ha×1回 3 檜山城跡の整備 景観伐木：支障木・危険木伐採300本、集積木運搬21t 除伐：1ha 案内板等の設置：実施せず ※大風倒木処理優先のため予算流用 4 民間業者による史跡檜山安東氏城館跡き損への対応 3年度対応：公有化の準備作業 相続関係調査（戸籍謄本等確認） 5 「のしろ檜山周辺歴史ガイドの会」の活動 ①利用者数実績 H30 1,321人 / R1 1,627人 / R2 498人 / R3 487人 ②研修会 ○霧山天満宮御開帳見学 日 時：5月23日（木）参加者：27名 ○多寶院御開帳見学 日 時：9月4日（水）参加者：38名 6 教育普及活動 能代東中学校1年生発掘体験 5月17日（月）参加者：33名 秋田県埋蔵文化財報告会 日 時：3月4日（金）～ 15日（火） 会 場：秋田県立図書館2階特別展示室

点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ・ のしろ檜山周辺歴史ガイドの会の利用者数に関して、新型コロナの影響等により、集団での史跡見学者、特に市外・県外からの団体客が大幅に減少し、目標を達成することはできなかった。しかしその反面、研修会は、元年度までは年1回実施、2年度は中止としたが、3年度は研修機会が2回に増え、ガイドの資質向上が図られた。 ・ 令和3年2～3月の強風により史跡内において大規模な倒木・枝折損被害があり、根起こりによるき損も生じた。き損箇所と遊歩道の保全を優先して処理したため、整備の年次計画どおりに実施はできなかったが、大規模なき損に早急に対応することができ、き損箇所の調査成果も得られた。 ・ 民間業者によるき損対応の公有化については、当該地の境界について疑義があり、その解決のため復旧計画を変更して対応する必要性が生じている。		
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 ()		
	[具体的な課題及び取組] ・ 整備及び発掘調査体制の充実に努める。 ・ 調査整備委員会の開催及び指導を随時実施する。 ・ 史跡への関心を高めるための情報発信のあり方の検討。 様々な手法によるタイムリーな情報提供に努める。 ・ き損への対応として、公有地化の上で史跡の本格復旧を図る必要がある。		
学 識 経 験 者 の 意 見	☐ 近年は城めぐりブームとなっていました、コロナ禍でやや落ち着いているようにも伺えます。檜山城跡の保全にとどまらず、コロナ後を見据えた見学・観光コースへの組み入れなど、遺跡の積極的な利用を考えて頂くよう、お願いします。 ☐ 強風による大規模な倒木・枝折損被害が生じた時点で整備計画を軌道修正し、大規模なき損に早急に対応したことは、適切な判断であったととらえます。 ☐ 「檜山城跡の整備」「のしろ檜山周辺歴史ガイド会の活動」「教育普及活動」等を充実させ、目標値である「年間1,500人以上の歴史ガイド利用者数」を目指した事業を推進していくことが重要だと考えます。		

基 本 目 標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興		
施 策 項 目	② 文化財保護事業の推進		
方 針 ・ 目 標	歴史資料の保存、活用に努めるとともに、国指定史跡檜山安東氏城館跡環境整備計画に基づいた取り組みを推進します。		
事業・取組名	埋蔵文化財調査事業		
目 標 値	開発行為に関わる調査依頼に応じ、確認調査・発掘調査を実施することにより、遺跡の保存に努めます。		
事 務 事 業 の 実 績	1 本発掘調査：依頼件数 1 件、実施件数 1 件 赤ハゲⅠ・Ⅱ遺跡 2 試掘（確認）調査：依頼件数 0 件、実施件数 0 件 3 試掘（分布）調査：依頼件数 2 件、実施件数 2 件 竹生Ⅱ遺跡、河戸川浅内地区（県営ほ場整備事業関係） 4 立会調査：5 件 新大林Ⅱ遺跡近接地・竹生Ⅱ遺跡・梯ノ台遺跡（2 件）・烏野上岱		
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ・文化財保護法に則り、埋蔵文化財保護事務を遂行できた。		
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] ・大規模な本調査が重なった際に、現在の職員体制では適正な調査の遂行が困難となる場合がある。 ・文化財保護法に則り、埋蔵文化財保護事務を進める。		
学 識 経 験 者 の 意 見	○埋蔵文化財はふるさとの宝だと感じています。引き続いて埋蔵文化財の調査・保存、そして活用を進めて頂きますよう、お願いします。 □今後も発掘調査、試掘調査等の充実を図り、文化財の保存・活用事業を推し進めてください。		

基 本 目 標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興																									
施 策 項 目	③ 文化芸術の振興																									
方 針 ・ 目 標	文化芸術団体等への支援に努め、芸術鑑賞の機会や活動の場を提供します。																									
事業・取組名	市民文化振興事業																									
目 標 値	文化月間の入場者数について、前年度以上を目指します。																									
事 務 事 業 の 実 績	1 文化月間の設定																									
	<table><tr><th rowspan="2">年度</th><th colspan="2">区 分</th></tr><tr><th>展 示 部 門</th><th>舞 台 部 門</th></tr><tr><td>R 3 10/3～11/14</td><td>7 団体 入場者数 13,967 人</td><td>14 団体 入場者数 608 人</td></tr><tr><td>R 2</td><td>8 団体 入場者数 7,062 人</td><td>24 団体 入場者数 932 人※</td></tr><tr><td>R 1</td><td>9 団体 入場者数 8,118 人</td><td>17 団体 入場者数 619 人</td></tr><tr><td>H30</td><td>8 団体 入場者数 9,025 人</td><td>15 団体 入場者数 710 人</td></tr></table>	年度	区 分		展 示 部 門	舞 台 部 門	R 3 10/3～11/14	7 団体 入場者数 13,967 人	14 団体 入場者数 608 人	R 2	8 団体 入場者数 7,062 人	24 団体 入場者数 932 人※	R 1	9 団体 入場者数 8,118 人	17 団体 入場者数 619 人	H30	8 団体 入場者数 9,025 人	15 団体 入場者数 710 人								
	年度		区 分																							
		展 示 部 門	舞 台 部 門																							
	R 3 10/3～11/14	7 団体 入場者数 13,967 人	14 団体 入場者数 608 人																							
	R 2	8 団体 入場者数 7,062 人	24 団体 入場者数 932 人※																							
	R 1	9 団体 入場者数 8,118 人	17 団体 入場者数 619 人																							
	H30	8 団体 入場者数 9,025 人	15 団体 入場者数 710 人																							
	※R2 舞台部門は、県芸文フェスティバルと同時開催。市内の参加は 16 団体で例年並みだが、市外からの参加団体も多く、例年より団体数及び入場者数が多くなっている。																									
	2 市民文化振興（文化芸術団体等への支援等）																									
・芸術文化活動事業費補助金（ミュージカル、オペラ等公演費の補助）																										
(1) 能代ミュージカル 予算 1,330 千円 → 中止																										
(2) 能代市民ミュージカル 予算 650 千円 → 中止 601,605 円																										
(3) 能代オペラ音楽祭 予算 0 千円 → 開催予定なし																										
※(2)はコロナ感染拡大により直前に中止決定したが、既に支出した事業に対し補助金支出																										
・能代ミュージカルキッズ支援（練習会場使用料等の補助）公演はコロナで中止																										
・伝統文化親子教室事業（文化庁／採択 3 事業）																										
・芸術文化による子供育成総合事業（文化庁／3 小中学校で実施）																										
・その他（後援、文化会館助成等）																										
3 市所蔵絵画展の開催																										
<table><tr><th>年度</th><th>期日</th><th>展示テーマ/会場</th><th>来場者数</th></tr><tr><td>R 3</td><td>11/18～11/22</td><td>（なし）/二ツ井町庁舎市民フロア</td><td>200 人</td></tr><tr><td>R 2</td><td>11/7～11</td><td>大原省三/文化会館中ホール</td><td>879 人</td></tr><tr><td>R 1</td><td>10/29～11/3</td><td>（なし）/二ツ井町庁舎大会議室</td><td>161 人</td></tr><tr><td>H30</td><td>11/2～6</td><td>（なし）/本庁舎大会議室</td><td>420 人</td></tr><tr><td>H29</td><td>10/25～30</td><td>（なし）/二ツ井町庁舎市民フロア</td><td>166 人</td></tr></table>			年度	期日	展示テーマ/会場	来場者数	R 3	11/18～11/22	（なし）/二ツ井町庁舎市民フロア	200 人	R 2	11/7～11	大原省三/文化会館中ホール	879 人	R 1	10/29～11/3	（なし）/二ツ井町庁舎大会議室	161 人	H30	11/2～6	（なし）/本庁舎大会議室	420 人	H29	10/25～30	（なし）/二ツ井町庁舎市民フロア	166 人
年度	期日	展示テーマ/会場	来場者数																							
R 3	11/18～11/22	（なし）/二ツ井町庁舎市民フロア	200 人																							
R 2	11/7～11	大原省三/文化会館中ホール	879 人																							
R 1	10/29～11/3	（なし）/二ツ井町庁舎大会議室	161 人																							
H30	11/2～6	（なし）/本庁舎大会議室	420 人																							
H29	10/25～30	（なし）/二ツ井町庁舎市民フロア	166 人																							
※H29 二ツ井町庁舎市民ホール使用のため、全日の立会い/カウントなし チラシ配布 76 枚、芳名帳 42 人、土日来場（立会い）48 人																										
※R3 二ツ井町庁舎市民ホール使用のため、全日の立会い/カウントなし チラシとアンケート配布数、土日来場（立会い）より計上																										

点 検 ・ 評 価	評価	A	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ・文化月間は、舞台部門については2年度に県芸文フェスティバルと同時開催であったことを考慮すると、入場者数 608 人とほぼ横ばいながら、展示部門については、13,967 人と前年度の倍増となり目標を上回った。 ・市所蔵絵画展は、例年より開催時期が遅れ、時期的に天候不良の日も多かったが、二ツ井町庁舎 市民フロアでの開催だったことで、絵画展目的での来庁者以外に、他の用事のために来庁された方や図書館来館者も、気軽にお立ち寄りいただけた。二ツ井町庁舎で開催した令和元年度と比較して増加しているため、目標を上回ると評価した。		
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 ()		
	[具体的な課題及び取組] ・文化月間の在り方を検討する。(文化月間は、市が主唱し、能代市芸術文化協会が主催する約1ヶ月間の会員の展示発表会であり、市で文化会館の会場使用料の一部を補助している。芸術文化協会の加盟団体及び会員数も減少傾向にあり、前月には公民館祭もあるため、文化月間を類似の催事を包括する期間に再設定するなど、市民の多くが関わることで文化芸術をPRできる行事としていく必要がある。) ・能代市芸術文化協会と連携し、市民文化月間への参加団体の維持・拡大を図る。 ・市ホームページや県生涯学習総合案内サイトを中心に情報提供を行う。 ・市所蔵絵画展については、展示方法や展示場所等、今後の在り方について検討していく。 ・各種助成事業等については、引き続き様々な団体が利活用できるよう、わかりやすい周知に努める。		
学 識 経 験 者 の 意 見	☐ コロナ禍によって能代ミュージカルや能代市民ミュージカルが中止となったことは、残念ですが、展示部門の入場者数が大幅に増えるなど、関係者の努力のあとが見受けられるものとなっています。オンラインミュージカルなど、何らかの形で文化活動が再開できるよう、関係各位の皆様をお願いしたいと思います。 ☐ 展示部門の入場者数が大幅に増加していることは、担当課の努力の賜ととらえます。今後、市民文化月間の時期を考慮したり、情報提供を工夫したりして、市民が文化芸術に多く触れることができるような事業を推し進めてください。		

基 本 目 標	4 ふるさとの伝統文化の継承と文化芸術の振興			
施 策 項 目	③ 文化芸術の振興			
方 針 ・ 目 標	文化芸術団体等への支援に努め、芸術鑑賞の機会や活動の場を提供します。			
事業・取組名	文化会館主催事業			
目 標 値	事業数及び入場者数について、前年度以上を目指します。			
事 務 事 業 の 実 績	1 主催事業			
	No.	開催日	事業名	内容 入場者
	1	8/22	オーケストラで聴くジブリ音楽	クラシック 574
	2	9/12	能代市伝統芸能フェスティバル	市民参加型 300
	3	10/15	Little Glee Monster コンサート	歌謡 572
	4	11/21	牛牛 ピアノリサイタル	クラシック 389
	5	11/28	ミュージカル「松浦武四郎〜カイ・大地との約束〜」	ミュージカル 653
	6	12/5	第 17 回クリスマスこどもコンサート	市民参加型 452
	7	12/9	Jim Butler Group Xmas Jazz Night	歌謡 78
	8	12/19	第 17 回みんなで歌うコンサート	市民参加型 298
	9	3/6	第 22 回のしろクラシックコンサート	市民参加型 250
			R3 年度合計	9 回 3,566 人
			R2 年度合計	3 回 1,747 人
	2 ロビーコンサート（市民に無料で参加発表できる場を提供）			
	No.	開催日	内容	入場者
	1	8/28	岡田琴千流大正琴演奏会	20 人
	2	11/20	銀のすずリンリンコンサート	100 人
	3	3/20	渡辺真弓と仲間たち ミニヨン・コンサート	70 人
			R3 年度合計	3 回 190 人
			R2 年度合計	3 回 252 人
	3 文化会館主催事業と学校（芸術鑑賞教室等）との連携			
	年度	開催日	事業名	対象 入場者
	R3	実績なし		
	R2	実績なし		
	R1	8/28 ほか 9/25 ほか	リージョナルシアター演劇普及事業 公共ホール音楽活性化 アウトリーチフォーラム事業	小/高校生 小学生 68 人 238 人
	H30	実績なし		

点 検 ・ 評 価	評価	A	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] 日常的にコロナ禍となっているなか、感染対策をとりながら公演を企画・開催しており工夫がみられ、令和2年度と比較すると、開催数・入場者数ともに増加している。		
課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他 ()		
	[具体的な課題及び取組] 市民ニーズを反映した事業を展開するため、チケットの販売状況の分析や入場者や市民等に対するアンケートを継続して実施する。また、文化会館内に設置する意見箱への意見はほぼないことから、市民や利用者の声の募集の方法（インターネット等）についても検討していく。		
学 識 経 験 者 の 意 見	☐ 令和2年度に比べて今年度は主催事業での入場者数が大幅に増加するなど、事業を積極的に推進したことが伺えるものとなっています。今後も積極的に活動を続け、文化会館の有効活用に力を注いでください。 ☐ コロナ禍でありながら、感染防止対策を徹底することで主催事業がすべて開催されたことは、大きな成果といえます。また、入場者数も昨年度に比べて大幅に増加しており、目標達成といえます。		

基 本 目 標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進
施 策 項 目	① 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
方 針 ・ 目 標	心身ともに健康な大人となる基礎をつくるため、学校体育と地域のスポーツ活動を支援し、体力の向上に努めるとともに、競技力向上を図ります。
事業・取組名	1 子どもの体力向上の推進 2 小・中学校の体育等に関する活動の充実
目 標 値	新体力テストの体力合計点で、おおむねすべての学年において、県平均以上を目指します。
事 務 事 業 の 実 績	1 子どもの体力向上の推進 関係団体と連携し、各種事業を通して運動の習慣化等に取り組んだ。 ○主な事業 ・能代市 - チャレンジデー（新型コロナの影響により中止） - きみまち二ツ井マラソン（新型コロナの影響により中止） - NOSHIROバスケットボールフェスタ（1回） ・指定管理者 - マリンスポーツ教室（12回）※カヌー&ヨット体験他 - スポレクフェスタのしろ、ふたつ（新型コロナの影響により中止） - ファミリーいきいき水泳塾（4回） - ファミリーいきいき体操塾（4回） - ファミリーいきいき陸上塾（新型コロナの影響により中止） - ファミリーいきいきスポーツ塾（4回） ・市スポーツ協会 - ブラウブリッツ秋田サッカークリニックin能代（1回） ・総合型地域スポーツクラブ - ファミリースポーツ教室（38回）※ミニテニス、卓球、各種レク他 - 多種目スポーツ教室（41回）※ニュースポーツ他 - バスケットボール教室（18回） ・市スポーツ少年団 - スポレクフェスタのしろ兼能代市スポーツ少年団交流大会（新型コロナの影響により中止） - 体力テスト（新型コロナの影響を鑑み、各団の活動の中で測定（3種目）を行い、学校等で実施した記録（4種目）と合わせて、市本部へ記録を提出したものを評価する形で実施） 2 小・中学校の体育等に関する活動の充実 ①体育・保健体育学習の充実に取り組んでいる。 ・新体力テスト結果分析を以降の学習指導に生かしている。 ・研修会へ参加し、体育・保健体育学習の充実に図っている。 ・休み時間等を活用した運動を実施している。 ・県の指導者派遣事業等を活用し、専門的な知識や技能を学んでいる。 ②中学校部活動の活性化を図るため、合同チームなどにより生徒のニーズに応じた運動部活動を推進している。 ③児童生徒の運動機会の拡充を図っている。 ・県の徒歩通学に関する調査結果を情報提供している。 ・学校訪問等で、体力の維持、向上を図るための指導や助言をしている。

点 検 ・ 評 価	評価	B A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る																																																																																																																																																			
	1～2 共通 新体力テストが2年ぶりに実施された。（令和2年度は新型コロナの影響により中止のため評価を見送った）令和元年度の調査では全ての学年において県平均以上を達成していたが、令和3年度の調査においては男子で県平均を下回る学年もいくつか見られた。新型コロナの影響により運動に取り組む機会が減ったことも要因として考えられる。 ○令和3年度新体力テスト体力合計点 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">小1</th> <th colspan="2">小2</th> <th colspan="2">小3</th> <th colspan="2">小4</th> <th colspan="2">小5</th> <th colspan="2">小6</th> </tr> <tr> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>男子</th> <th>女子</th> </tr> <tr> <td>秋田県</td> <td>31.33</td> <td>32.33</td> <td>38.31</td> <td>39.84</td> <td>44.25</td> <td>46.60</td> <td>50.34</td> <td>53.12</td> <td>55.61</td> <td>58.69</td> <td>61.62</td> <td>62.88</td> </tr> <tr> <td>能代市</td> <td>33.46</td> <td>34.29</td> <td>40.93</td> <td>44.18</td> <td>45.68</td> <td>48.69</td> <td>51.17</td> <td>53.70</td> <td>55.33</td> <td>59.63</td> <td>62.15</td> <td>65.99</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>2.13</td> <td>1.96</td> <td>2.62</td> <td>4.34</td> <td>1.43</td> <td>2.09</td> <td>0.83</td> <td>0.58</td> <td>-0.28</td> <td>0.94</td> <td>0.53</td> <td>3.11</td> </tr> <tr> <td>前年度比</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前々年度比</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2.25</td> <td>1.90</td> <td>1.99</td> <td>2.89</td> <td>1.53</td> <td>3.00</td> <td>0.50</td> <td>2.54</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 50%; text-align: center;"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">中1</th> <th colspan="2">中2</th> <th colspan="2">中3</th> </tr> <tr> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>男子</th> <th>女子</th> </tr> <tr> <td>秋田県</td> <td>35.27</td> <td>45.80</td> <td>44.59</td> <td>51.68</td> <td>51.15</td> <td>53.57</td> </tr> <tr> <td>能代市</td> <td>35.16</td> <td>48.85</td> <td>45.83</td> <td>51.99</td> <td>53.46</td> <td>56.50</td> </tr> <tr> <td>比較</td> <td>-0.11</td> <td>3.05</td> <td>1.24</td> <td>0.31</td> <td>2.31</td> <td>2.93</td> </tr> <tr> <td>前年度比</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>前々年度比</td> <td>1.01</td> <td>2.44</td> <td>2.70</td> <td>1.42</td> <td>1.62</td> <td>2.63</td> </tr> </table> ※前年度は新体力テストがなかったため比較はなし。前々年度比は、当該学年の2年前の県平均との比較値。 例：中2男子の2.70は小6時の県平均との比較値。													小1		小2		小3		小4		小5		小6		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	秋田県	31.33	32.33	38.31	39.84	44.25	46.60	50.34	53.12	55.61	58.69	61.62	62.88	能代市	33.46	34.29	40.93	44.18	45.68	48.69	51.17	53.70	55.33	59.63	62.15	65.99	比較	2.13	1.96	2.62	4.34	1.43	2.09	0.83	0.58	-0.28	0.94	0.53	3.11	前年度比													前々年度比					2.25	1.90	1.99	2.89	1.53	3.00	0.50	2.54		中1		中2		中3		男子	女子	男子	女子	男子	女子	秋田県	35.27	45.80	44.59	51.68	51.15	53.57	能代市	35.16	48.85	45.83	51.99	53.46	56.50	比較	-0.11	3.05	1.24	0.31	2.31	2.93	前年度比							前々年度比	1.01	2.44	2.70	1.42	1.62
	小1		小2		小3		小4		小5		小6																																																																																																																																										
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子																																																																																																																																									
秋田県	31.33	32.33	38.31	39.84	44.25	46.60	50.34	53.12	55.61	58.69	61.62	62.88																																																																																																																																									
能代市	33.46	34.29	40.93	44.18	45.68	48.69	51.17	53.70	55.33	59.63	62.15	65.99																																																																																																																																									
比較	2.13	1.96	2.62	4.34	1.43	2.09	0.83	0.58	-0.28	0.94	0.53	3.11																																																																																																																																									
前年度比																																																																																																																																																					
前々年度比					2.25	1.90	1.99	2.89	1.53	3.00	0.50	2.54																																																																																																																																									
	中1		中2		中3																																																																																																																																																
	男子	女子	男子	女子	男子	女子																																																																																																																																															
秋田県	35.27	45.80	44.59	51.68	51.15	53.57																																																																																																																																															
能代市	35.16	48.85	45.83	51.99	53.46	56.50																																																																																																																																															
比較	-0.11	3.05	1.24	0.31	2.31	2.93																																																																																																																																															
前年度比																																																																																																																																																					
前々年度比	1.01	2.44	2.70	1.42	1.62	2.63																																																																																																																																															
課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] 1 子どもの体力向上の推進 幼児から児童生徒まで運動の習慣化に繋げていくため、関係団体と連携しながら引き続き効果的な事業展開を図る。 2 小・中学校の体育等に関する活動の充実 児童生徒に運動習慣や健康的な生活習慣を身に付けさせるため、引き続き各事業の推進を図る。																																																																																																																																																				
学 識 経 験 者 の 意 見	○令和2年度は中止となった新体力テストが、関係各位の努力により実施されたこと、喜ばしいことだと思います。すべての学年で県平均を上回っていたものが、一部の学年で下回ったことは、ご指摘のように新型コロナウイルス感染症の影響と考えられます。コロナ後を見据えた取り組みを積極的に推進されるよう、お願い致します。 ☐ 能代市、指定管理者、市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、市スポーツ少年団が連携し、多くのスポーツに取り組むことができる事業を展開しています。このことは、児童生徒のスポーツに対する興味・関心を高めるとともに、体力向上を目指した体育活動となっています。 ☐ コロナ禍により、児童生徒の運動の機会が減少したことで、体力の低下が見られます。学校体育、部活動、スポーツ少年団活動、地域スポーツ活動において、運動の習慣化に繋げていくための対策を講じていくことが大切だと考えます。また、新体力テストから個人差も見られますので、個に応じた指導の工夫も必要だと思います。																																																																																																																																																				

基 本 目 標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進		
施 策 項 目	② ライフステージに応じたスポーツ活動の推進		
方 針 ・ 目 標	体力や年齢等に応じて、日常的にスポーツを楽しみながら、体力づくり、健康づくりに取り組むことができる環境を整えます。		
事業・取組名	1 青・壮年期におけるスポーツ参加機会の拡充 2 高齢者がはつらつと運動・スポーツに参加できる環境の整備 3 健康づくり運動の推進		
目 標 値	市民が、体力や年齢等に応じて、安全にスポーツに親しむことができるように、スポーツへの参加を促進する機会や環境の整備を推進します。		
事 務 事 業 の 実 績	1 青・壮年期におけるスポーツ参加機会の拡充 関係団体と連携し子育て世代等の運動機会の確保に取り組んだ。 ○主な事業 ・指定管理者 初めてのマシントレーニング教室（能代4回、二ツ井4回） 初めての山登り教室（4回） ステップエクササイズ（新型コロナの影響により中止） ・市スポーツ協会 初めてのバレーボール教室（8回）※ボディメイクエクササイズ ・総合型地域スポーツクラブ 各種講座 ※太極拳、ヨガ、フィットネス他 多種目スポーツ教室（41回）※ニュースポーツ他 エアロ&ステップエクササイズ（37回） 2 高齢者がはつらつと運動・スポーツに参加できる環境の整備 関係団体と連携し福祉と連動した健康づくり事業を展開している。 ・指定管理者 シルバースポーツの日（21回）※ラージ卓球、ユニカール他 ・市スポーツ協会 二ツ井シルバースポーツの日（21回）※ラージ卓球、ユニカール他 ・総合型地域スポーツクラブ 各種講座 ※ラージ卓球、軽運動、健康増進運動他 3 健康づくり運動の推進 ①チャレンジデーの開催を検討したが、新型コロナにより中止とした。 ②のしろ歩け歩け大会の開催を検討したが、新型コロナにより中止とした。		
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ・成人の週1回以上のスポーツ実施率（市民意識調査） 3年度 51.3%（2年度 51.8%） 前年度より0.5ポイント減となった。新型コロナ感染拡大防止のため、各種イベントが中止になるなど、市民のスポーツ活動に影響を与えているものと考えられる。		

課題及び 今後の取組の 方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] 1 青・壮年期におけるスポーツ参加機会の拡充 継続事業は、各種教室や研修会等それぞれの団体において実施できている。成人の週1回以上のスポーツ実施率が上がったことから、引き続きニーズに対応したプログラムの提供や情報提供の工夫、利用しやすいスポーツ施設の運営等、各団体との連携を図っていく。 2 高齢者がはつらつと運動・スポーツに参加できる環境の整備 関係団体等と連携し、引き続き各種事業の推進及び支援を図っていく。 グラウンドゴルフ場整備 R4.10供用開始予定 3 健康づくり運動の推進 チャレンジデーは、スポーツや健康づくり、地域の絆づくりに効果的である。参加率も回数を重ねる毎に増加してきていることから、さらに各団体や地域と連携を深め、引き続き参加率の向上とスポーツの習慣化を図っていく。
学識経験者の 意見	○成人週1回以上のスポーツ実施率が前年度に比べ低下しましたが、ご指摘のように新型コロナウイルス感染症の影響と考えられます。新しい工夫を加えて、この数値を上昇させることを考えて頂くよう、お願いします。 ☐ コロナ禍により、各種イベントの中止が事業に影響していますが、成人の週1回以上のスポーツ実施率は昨年度とほぼ同等の数値となっていますので、目標達成といえます。 ☐ アンケート調査等で参加したいイベントを把握し、ニーズに応じた事業を開発することも大切だと考えます。

基 本 目 標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進		
施 策 項 目	③ スポーツを活用した地域の活性化		
方 針 ・ 目 標	バスケの街づくりの推進や特色あるスポーツ事業、全国レベルの大会誘致や支援による交流人口の拡大に努めます。		
事業・取組名	1 スポーツを活用した地域づくり 2 スポーツによる交流人口の拡大 3 「バスケの街づくり」を中心としたスポーツによる街づくりの推進		
目 標 値	スポーツを活用した、地域のにぎわい創出と大規模スポーツ大会の誘致や支援等に取り組みます。		
事 務 事 業 の 実 績	1 スポーツを活用した地域づくり ① のしろチャレンジデー2021は、新型コロナの影響により中止 ② 関係団体と連携したスポーツ合宿等の取り組み。 ※観光振興課所管のスポーツ・文化合宿事業を除く ・市体育協会が中心となり実行委員会を組織し、バスケットボールキャラバンのサマーリーグin能代の招致を計画したが、新型コロナの影響により中止とした。 ・バドミントン日本代表とジュニアナショナルチームの強化合宿を招致した。 2 スポーツによる交流人口の拡大 ① 関係団体、民間企業等と連携したスポーツによる交流の推進。 ・きみまちの里フェスティバル（きみまち二ツ井マラソン、物産フェア）については、新型コロナの影響により中止となった。 ②新たなスポーツの魅力の発掘及び開発支援 ・H28年度から市体育協会で新しいスポーツとして「バブルサッカー」の取組を継続していたが、新型コロナの影響により中止とした。 ③大規模なスポーツ大会・イベントと連動した観光誘客 ・能代カップが、新型コロナの影響により中止となった。 3 「バスケの街づくり」を中心としたスポーツによる街づくりの推進 ① 本物のバスケに触れられる街づくり ・bリーグ秋田ノーザンハピネッツ（プロバスケ）のホームゲームが3月に開催された。 ②バスケで誰もが集える環境づくり ③バスケによる地域経済の活性化 ④バスケがどこでも感じられる街づくり ・能代カップ等への補助金の交付や、市教育長杯ミニバスケットボール大会等の事業を市バスケットボール協会等に委託し継続した。 ※能代カップ：新型コロナにより中止 ・屋外バスケットリングの設置 市内公園等 21カ所23基（3年度末）		
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ・新型コロナの影響により多くの事業が中止となったが、感染対策をとりながら大会やイベントを開催した。		

課題及び 今後の取組の 方向性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] 1 スポーツを活用した地域づくり 関係団体等と連携し、引き続き各種事業の推進及び支援を図っていく。 2 スポーツによる交流人口の拡大 ・スポーツイベントは競技団体が主体となることが多いことから情報収集し、円滑な運営をしていくよう引き続きノウハウの蓄積に努める。 ・市民への情報発信の方法（広報、市ホームページ、SNS等）について、関係団体と連携し、効率的な伝え方を工夫していく。 3 「バスケの街づくり」を中心としたスポーツによる街づくりの推進 関係団体等と連携し、引き続き各種事業の推進及び支援を図っていく。
学識経験者の 意見	○能代といえば「バスケの街」ですので、本事業の取り組みは大変興味深く感じます。最近の高いレベルでバスケットボールができる環境が県内外で増えているようですので、難しいとは思いますが、個人的には能代科学技術高校の頑張りに期待しています。 ☐ コロナ禍により、中止となる事業が多くありましたが、「バスケの街づくり」を中心としたスポーツによる街づくり計画は推進されています。今後の取組に向けて準備を進めてください。

基 本 目 標	5 スポーツで輝く夢のあるまちづくりの推進		
施 策 項 目	④ 市民が主体的に参画できるスポーツ環境の整備		
方 針 ・ 目 標	総合型クラブの設立支援と地域スポーツ指導者等の人材育成に努めるとともに、安全で利便性の高い施設の充実を図ります。		
事 業 ・ 取 組 名	1 地域のスポーツ指導者等の充実 2 スポーツ施設の充実 3 スポーツに関する表彰制度の整備		
目 標 値	スポーツ関係団体等と連携し、地域のスポーツ指導者等の充実に努め、併せて安全で利便性の高い施設の充実を図ります。		
事 務 事 業 の 実 績	1 地域のスポーツ指導者等の充実 ①地域のスポーツ指導者の育成と活用 ・市スポーツ推進委員会、市スポーツ協会、市スポーツ少年団等研修会の開催や派遣を行った。 ・研修会参加等の支援を行った。 ・スポーツ少年団指導者資格数 39団体 232人 (R2: 39団体 280人) ② スポーツリーダーバンク等の整備・充実の支援 ・市体育協会スポーツリーダーバンク登録者数 12種目 25人 2 スポーツ施設の充実 ①スポーツ施設の整備・改修 ・グラウンドゴルフ場の整備 (4年10月供用開始に向け整備を進めている) ②学校体育施設等の活用 ・登録スポーツクラブ制度により、学校体育館開放を継続して行った。 (淳西小、淳南小、第四小、第五小、向能代小) ③利用者ニーズに対応した施設の管理運営と利用促進 ・指定管理者による定期点検など安全管理を行っている。 ・施設利用者アンケートの結果を反映して改善に努めた。 ・施設年間利用者数 220,318人 (R2: 216,998人) ④自然環境や屋外施設を活用したスポーツと健康づくりの推進 ・市主催 のしろ歩け歩け大会 (新型コロナにより中止) ・指定管理者 マリンスポーツ教室 (米代川河口付近) 3 スポーツに関する表彰制度の整備 - 児童・生徒の表彰 (能代市栄光賞、市スポーツ協会スポーツ賞) を継続して行った。 ※新型コロナの影響により授与式は中止		
点 検 ・ 評 価	評価	B	A 目標を上回る B ほぼ目標どおり C 目標をやや下回る D 目標を大幅に下回る
	[説明] ・各種研修会の開催や派遣を実施・支援することにより、指導者やリーダーの育成と資質の向上を図った。 ・施設の整備等により、利用者が良好なコンディションで競技できる環境整備を図った。 ・体育施設の管理運営に関し、アンケート結果を反映して改善に努めたことにより、利用者ニーズへの対応が図られた。 ・大会等における成績優秀者への表彰を行うことにより、児童・生徒のスポーツに対する意欲の喚起を図った。		

課 題 及 び 今後の取組の 方 向 性	☐ 拡充 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ その他（ ） [具体的な課題及び取組] 1 地域のスポーツ指導者等の充実 ・スポーツ環境を整備する上で指導者の養成・確保は重要であり、そのための研修会や人材の発掘等については、引き続き各団体と連携し取り組んでいく。さらに、養成した指導者を効果的に活用するよう市体育協会のスポーツリーダーバンク等による指導者の派遣を行っていく。 2 スポーツ施設の充実 ・適切な施設の維持管理を行う。 ・経年劣化している施設の整備について、計画的な修繕及び改修を行う。 ・長寿命化計画に基づき施設の改修計画の検討を行う。
学 識 経 験 者 の 意 見	○小・中・高校教員の働き方改革にもつながりますので、学校の部活動との連携も検討して頂けるとありがたいです。部活動を指導できる人材の育成は、急務だと感じています。 ☐ スポーツ少年団指導者資格者数が減少傾向にあります。児童の健全なるスポーツ活動に支障を来さないよう早急に対応策を考え、指導員の確保に努めなければなりません。 ☐ 能代市の児童生徒のスポーツ・文化面での活躍は見事であり、すばらしい成果をあげています。その成果を「能代市栄光賞・市体育協会スポーツ賞」で称賛することで、児童生徒は自分の努力を振り返り、大きな喜びを味わうことができる受賞となっています。今後も事業の継続をお願いします。

Ⅲ 教育委員会の運営状況

1 教育委員会の開催状況

(1) 開催状況

定例会 12回 臨時会 2回

(2) 審議された案件等

年月日	区 分	番 号	件 名
R3. 4. 22	定例会	承認 第2号	臨時代理の承認について (能代市教育委員会職員の職名に関する規則の一部改正について)
		承認 第3号	臨時代理の承認について (能代市教育委員会事務局処務規程の一部改正について)
		承認 第4号	臨時代理の承認について (能代市教育委員会事務決裁規程の一部改正について)
		承認 第5号	臨時代理の承認について (追加) (令和3年度能代市教育委員会関係職員の人事異動の発令について)
		議案 第13号	能代市教育支援委員会委員の任命について
		議案 第14号	能代市学校運営協議会委員の任命について
		議案 第15号	能代市地域学校協働活動推進員の委嘱について
R3. 5. 24	定例会	承認 第6号	臨時代理の承認について (令和3年度能代市教育委員会関係職員の人事異動の発令について)
		承認 第7号	臨時代理の承認について (追加) (令和3年度能代市教育委員会関係職員の人事異動の発令について)
		議案 第16号	能代市社会教育委員の委嘱について
		議案 第17号	能代市公民館運営審議会委員の委嘱について
		議案 第18号	能代市立図書館協議会委員の任命について
		議案 第19号	能代市子ども館運営協議会委員の委嘱について
		議案 第20号	能代市文化会館運営協議会委員の委嘱について
		議案 第21号	令和3年度能代市一般会計補正予算案に対する意見の申出について
R3. 6. 24	定例会	議案 第22号	能代市文化財保護審議会委員の任命について
R3. 7. 21	定例会	承認 第8号	臨時代理の承認について (令和3年度能代市教育委員会関係職員の人事異動の発令について)
R3. 8. 26	定例会	承認 第9号	臨時代理の承認について (令和3年度能代市教育委員会関係職員の人事異動の発令について)
		議案 第23号	能代市文化財等寄贈寄託受入要綱の一部改正について

		議案 第 24 号	能代市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
		議案 第 25 号	令和 3 年度能代市一般会計補正予算案に対する意見の申出について
R3. 9. 22	定例会	議案 第 26 号	能代市立小中学校通学区域に関する規則の一部改正について
		議案 第 27 号	能代市立小学校小規模特認校制度に関する要綱の制定について
R3. 10. 21	定例会		なし
R3. 11. 19	定例会	承認 第 10 号	臨時代理の承認について (損害賠償の額を定め和解することの報告について)
		承認 第 11 号	臨時代理の承認について (令和 3 年度能代市教育委員会関係職員の人事異動の発令について)
		議案 第 28 号	能代市中央公民館、能代市文化会館、能代市勤労青少年ホーム及び能代市働く婦人の家の指定管理者の指定に対する意見の申出について
		議案 第 29 号	能代市二ツ井公民館及び能代市二ツ井公民館二ツ井分館の指定管理者の指定に対する意見の申出について
		議案 第 30 号	令和 3 年度能代市一般会計補正予算案に対する意見の申出について
R3. 12. 23	定例会	議案 第 31 号	能代市就学援助支給要綱の一部改正について
		議案 第 32 号	令和 3 年度能代市教育委員会関係職員の人事異動の発令について (追加)
R4. 1. 27	定例会	承認 第 1 号	臨時代理の承認について (能代市教育委員会事務決裁規程の一部改正について)
		議案 第 1 号	能代市教育研究所運営協議会要綱の一部改正について
		議案 第 2 号	能代市学校医の委嘱について
R4. 2. 10	定例会	議案 第 3 号	能代市学校給食費に関する条例案に対する意見の申出について
		議案 第 4 号	能代市公民館条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について
		議案 第 5 号	能代市屋外運動施設条例及び能代市屋外運動施設使用料条例の一部を改正する条例案に対する意見の申出について
		議案 第 6 号	令和 3 年度能代市一般会計補正予算案に対する意見の申出について
		議案 第 7 号	令和 4 年度能代市一般会計予算案に対する意見の申出について
R4. 2. 25	臨時会	議案 第 8 号	令和 4 年度能代市立小・中学校教職員の人事異動について

R4. 3. 17	臨時会	議案 第 9 号	令和 4 年度能代市教育委員会関係職員の人事異動の発令について
R4. 3. 24	定例会	議案 第 10 号	能代市立学校教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について
		議案 第 11 号	能代市招致外国青年の任用に関する規則の一部改正について
		議案 第 12 号	能代市学校給食センターの給食会計事務の処理に関する規則の廃止について
		議案 第 13 号	能代市屋外運動施設管理規則の一部改正について
		議案 第 14 号	能代市学校薬剤師の委嘱について
		議案 第 15 号	能代市二ツ井公民館分館長及び主事補の委嘱について
		議案 第 16 号	能代市二ツ井公民館分館運営委員の委嘱について
		議案 第 17 号	令和 4 年度能代市学校教育指導の重点について
		議案 第 18 号	能代市立中学校部活動指導員配置要綱の一部改正について
		報告 第 1 号	令和 4 年度能代市社会教育施設等運営方針について

2 教育委員の活動状況

年月日	行 事
R3. 6. 3	能代山本市町教育委員会連合会総会（書面開催）
R3. 9. 29	能代市教育委員会学校訪問（二ツ井小学校）
R3. 10. 19	〃（第四小学校）
R3. 10. 25	〃（向能代小学校・二ツ井中学校）
R3. 10. 27	〃（能代第二中学校）
R3. 10. 29	〃（東雲中学校）
R3. 11. 1	〃（淳城南小学校）
R3. 11. 4	全県市町村教育委員会教育長会議
R3. 11. 9	能代市教育委員会学校訪問（淳城西小学校・能代第一中学校）
R3. 11. 12	〃（第五小学校・能代東中学校）
R3. 11. 29	〃（浅内小学校・能代南中学校）
R4. 3. 7	総合教育会議（書面開催）
R4. 3. 13	市内中学校卒業式
R4. 3. 15	市内小学校卒業式

能代市教育委員会事務点検・評価報告書
(令和3年度対象)

能代市教育委員会

〒018-3192

能代市二ツ井町字上台1番地1

(担当 教育総務課)

電 話 0185-73-2757

FAX 0185-73-6459

E-mail kyouiku@city.noshiro.lg.jp